

# 鳥取駅周辺再生基本計画

次の50年へ。未来創造ステーション  
ーワクワクが止まらない、駅からはじまるミライのカタチー

令和6年6月

鳥取市



# 目次

## 1. はじめに

- 1-1. 作成の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 1-2. 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 1-3. 計画の対象範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

## 2. 鳥取駅周辺の現状と課題

- 2-1. 鳥取駅周辺の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2-2. 鳥取駅周辺の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

## 3. 鳥取駅周辺の再生に向けたビジョン

- 3-1. 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 3-2. 目指す将来像と込めるメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

## 4. 取組の方向性

- 4-1. 鳥取駅周辺再整備の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 4-2. 整備イメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 4-3. 基本方針別の取組内容について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

## 5. 鳥取駅周辺の再生に向けて

- 5-1. 今後のスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
- 5-2. 今後の検討課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

【参考】 鳥取駅周辺再生基本計画策定の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

市民政策コメントの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40



# 1 はじめに

## 1-1. 作成の目的

本市は、因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏(以下、麒麟のまち圏域)の中心市として、経済や観光、交流、防災面において、重要な役割を担っており、高速道路網や鳥取駅、鳥取空港、鳥取港などが集まる交通の要衝でもあります。特に、観光面では、鳥取砂丘や山陰海岸ジオパーク、鳥取城跡、温泉などの豊富な観光資源を有しており、インバウンド需要をはじめとし、国内外から多くの観光客が訪れるポテンシャルを有しています。その中で、鳥取駅周辺地区は、鳥取市中心市街地活性化基本計画において、「山陰東部圏域の中心市の核として、さまざまな機能が集積する舞台」として位置づけられており、商業・業務機能が集積するとともに民藝のまちとして歴史・文化資源を有しています。また、鳥取駅は鉄道、路線バス、高速バス、タクシーなどの交通結節点として、今後も住民生活を支える重要な場所となっています。

一方、全国的にも人口減少、少子高齢化が進み、本市の次の時代を担う若者の流出、それに伴うまちの活力・魅力の低下、商店街の衰退、地域の持続性などの課題を抱えています。鳥取駅周辺においても、老朽化が進む鳥取バスターミナル(以下、バスターミナル)や、利便性の低下した動線、駅前広場の賑わいの低下など、多くの課題を抱えています。

引き続き、中心市街地に賑わいを取り戻し持続可能なまちづくりを進めるためには、山陰東部圏域のエントランスである鳥取駅周辺を再生し、中心市街地に賑わいを取り戻すことで、地域への誇りや愛着(シビックプライド)を醸成することが必要です。特に、本市に住む学生や若い社会人、子育て世代などの若者のシビックプライドを育むことは、鳥取への定住に繋がり、優れた人材の確保、文化・芸術の伝承、それに伴う地域活性化や地域経済の維持などの効果が期待されます。

そのためには、人口減少を前提に諦めるのではなく、人口減少に立ち向かう意志をもって、本市の次の時代を担う若者が住み続けたいと思える鳥取駅周辺の再生に取り組むことが今を生きる我々の責務です。若者が住み続けたい、再び愛着のある地元に戻って暮らしたいと思えるまちづくりは、人口流出を食い止め、それに起因する自然減の抑制にも繋がるという考え方で取り組む必要があります。

鳥取駅周辺再生基本計画(以下、本計画)は、市民がワクワクする鳥取駅周辺に再生することで、鳥取駅を舞台にヒト・モノ・コトが集積し、交流の輪が人材を育成し続けるまちづくりの好循環を生み出すための基本的な方向性を示すものです。

最後に、本計画は鳥取駅周辺再整備のロードマップで「構想段階」にあり、今後、市民の皆様や民間事業者、関係機関など、多様な主体と連携し、本計画を実現していくための「鳥取駅周辺再生整備計画」の策定を目指してまいります。



図 現在の鳥取駅周辺

## 1-2. 計画の位置づけ

本計画は、鳥取県や麒麟のまち圏域の計画と整合を図りつつ、本市の上位・関連計画に即して位置づけます。

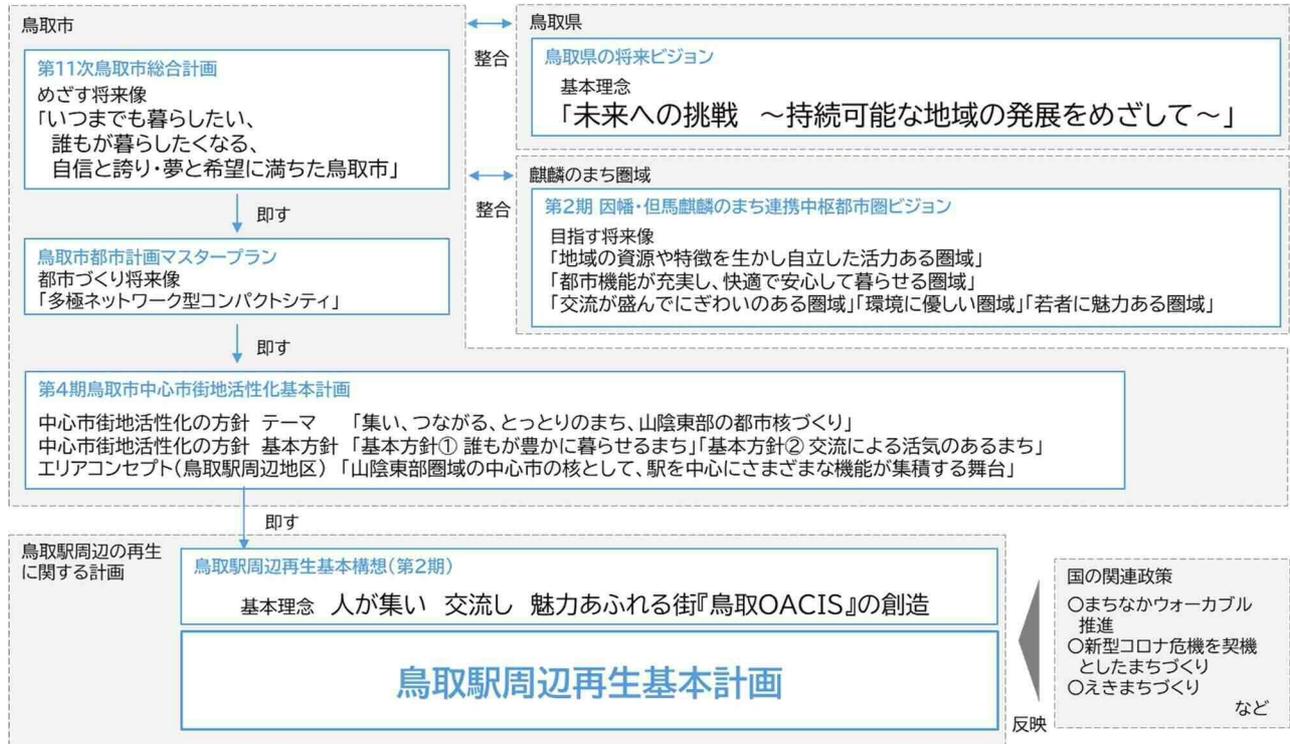


図 計画の位置づけ

<参考:本市の中心市街地の位置づけ>

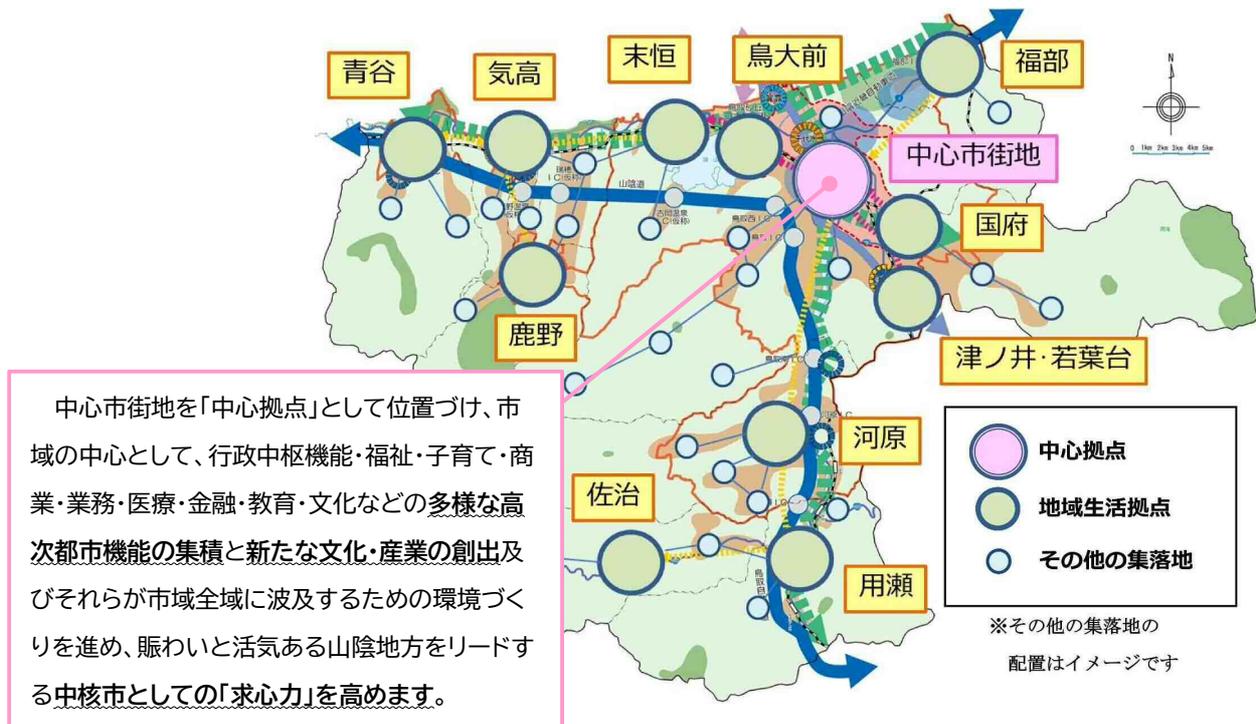
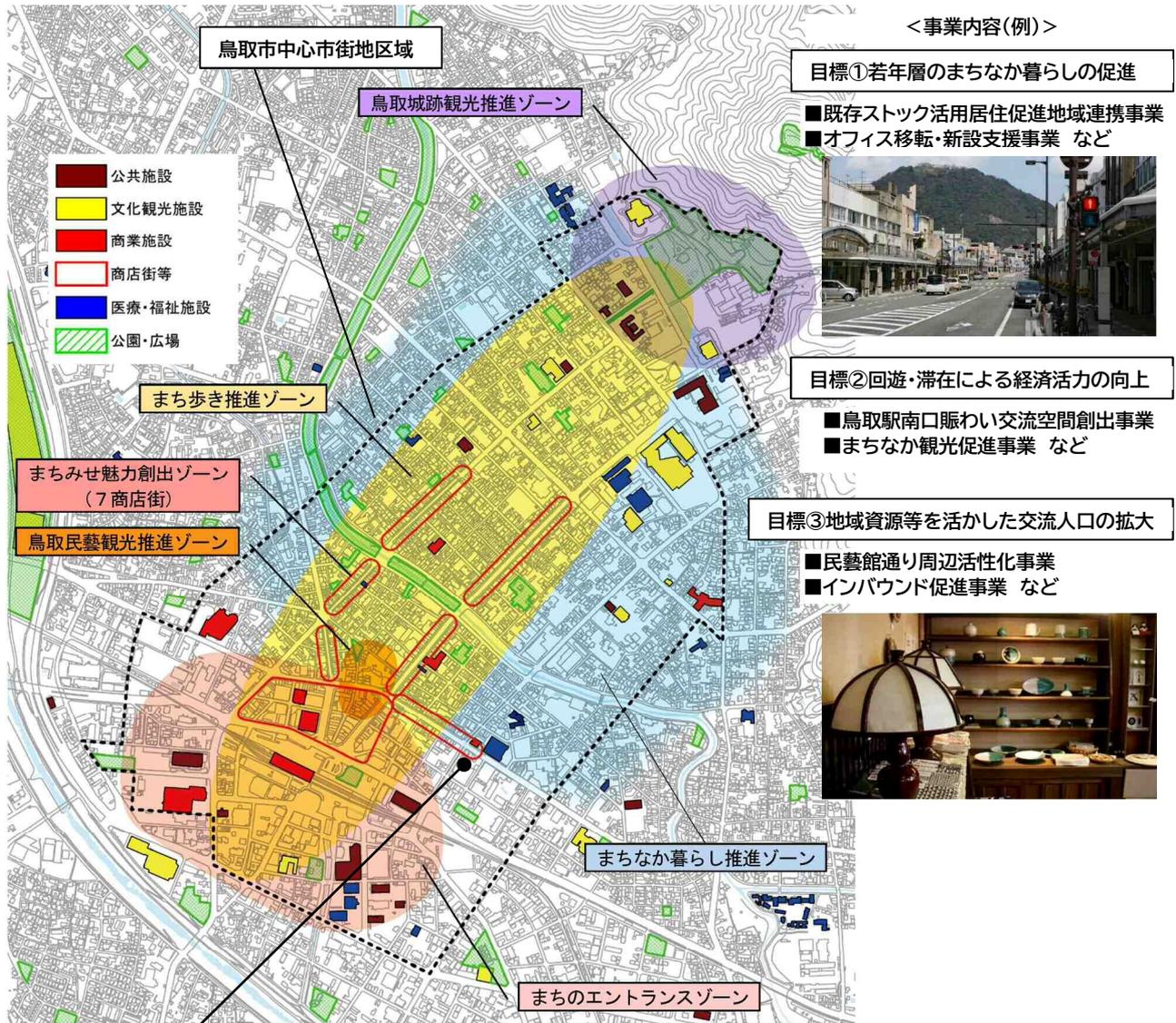


図 多極ネットワーク型コンパクトシティの概念図

出典 鳥取市都市計画マスタープラン(平成29年3月 鳥取市)

<参考:鳥取駅周辺地区の位置づけ>



**鳥取駅周辺地区**

**方向性:山陰東部圏域の中心市の核として、駅を中心にさまざまな機能が集積する舞台**

**○まちのエントランスゾーン …【鳥取駅周辺】**

歩行者動線の改善、交通結節点機能の強化、観光情報の発信、駅南北の回遊性向上などにより、市の玄関口としての魅力や機能の向上を図ることと併せて、情報発信や健康づくり、子育て支援機能などの市民サービス機能の充実・強化を図る。

**○鳥取民藝観光推進ゾーン …【民藝館通り周辺】**

鳥取民藝等の地域資源を活かして、空き店舗活用や通り環境整備等により観光交流の促進を図る。

**○まちみせ魅力創出ゾーン …【7商店街】**

商店街が連なる通りとその周辺の商業機能が集積したゾーンであり、新規開業の促進や既存個店の経営強化、既存ストックの利活用を通じて、賑わいや魅力を創出する。

**○まちなか暮らし推進ゾーン …【袋川から末広通り一帯】**

地域住民等と連携した空き家等の利活用や子育て支援機能の強化により、若年層の居住の促進を図る。

**○まち歩き推進ゾーン …【二軸周辺】**

公民の公共空間を「人中心」の空間へ転換し、ウォーカブルな環境を創出することで、居心地が良く歩きたくなるまちなかの推進を図る。また、100円循環バス「くる梨」の活用、まち歩きの推進等により回遊・滞在性を強化する。

図 中心市街地活性化のゾーン設定の概念図

出典 第4期鳥取市中心市街地活性化基本計画(令和5年4月 鳥取市)



## 2 鳥取駅周辺の現状と課題

### 2-1. 鳥取駅周辺の現状

#### 豊富な資源を有するポテンシャルを秘めた地域

- 麒麟のまち圏域は、古くから一体的な生活圏を形成しています。その中で本市は、鳥取砂丘コナン空港や鳥取港が位置する麒麟のまち圏域の交通の要衝地であり、経済、観光、交流、防災の拠点となっています。
- 鳥取駅が位置する本市の中心市街地は、行政中枢機能や商業・業務機能が集積するとともに民藝のまちとして歴史・文化資源を有しています。
- 日本を代表する観光地である「鳥取砂丘」をはじめ、日本一の山城「鳥取城跡」や、国重要文化財「仁風閣」、「鳥取民藝美術館」、「鳥取温泉」、「桜土手」などのポテンシャルの高い観光資源を有しています。
- 鳥取県東部の観光入込客数は約350万人/年と、多くの観光客が訪れています。特に、外国人延べ宿泊者数は約1.2万人/年など、今後もインバウンド観光客の増加が期待され、鳥取砂丘周辺ではハイグレードホテルの建設が予定されています。



図 鳥取市の拠点性



図 鳥取駅周辺のポテンシャル

## 鳥取駅周辺施設等の老朽化

- バスターミナルや地下通路、風紋広場、市営駐輪場など、鳥取駅周辺の施設では老朽化が進行しています。
- 市内の文化施設は建設から半世紀が経過し、複数の施設が同時期に改修・改築を迎えています。

## 鳥取駅周辺の防災機能の充実

- 鳥取駅周辺は、一級河川である千代川の氾濫時に浸水が予測されています。
- 鳥取駅周辺に一時的な避難場所や帰宅困難者の受入れ環境など、今後、大規模な災害が発生した場合の備えが必要な状況です。
- また、鳥取駅周辺の道路は、緊急輸送道路ネットワークにも位置づけられており、防災拠点を連絡する道路網として災害時に重要な役割を果たすことが求められています。

## 周辺道路における交通混雑

- 鳥取駅北側のバスターミナルを拠点に市内の東西南北にバス路線が伸び、平日 868 便/日、休日 660 便/日(R5 時点)と多くのバスが発着しています。
- 鳥取駅西側の今町2丁目交差点は、主要渋滞箇所指定されるなど、周辺道路が混雑しています。
- 国道 53 号は日常利用と観光利用が混在する路線でありながら、片側 1 車線の区間があるなど交通容量が低く、交通混雑や速度低下が引き起こされています。これにより片側2車線区間の県道鳥取停車場線を經由して今町 2 丁目交差点に進入する車両も混在するなど、交通形態が複雑になっています。

## 市民や利用者からのまちづくりに対するニーズ

- 市民からは、今後のまちづくりの方向性として「人が集まるにぎやかな交流・観光のまちづくり: 49.8%」や「災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくり: 45.1%」などを要望する声が多いです。
- また、中心市街地活性化について取り組むべきこととして、娯楽・宿泊施設、文化・芸術、商業施設など賑わい拠点機能の整備や、持続可能な利便性の高い交通サービスの提供が求められています。
- 駅利用者からは飲食店やおしゃれなカフェなどを求める声が多いです。

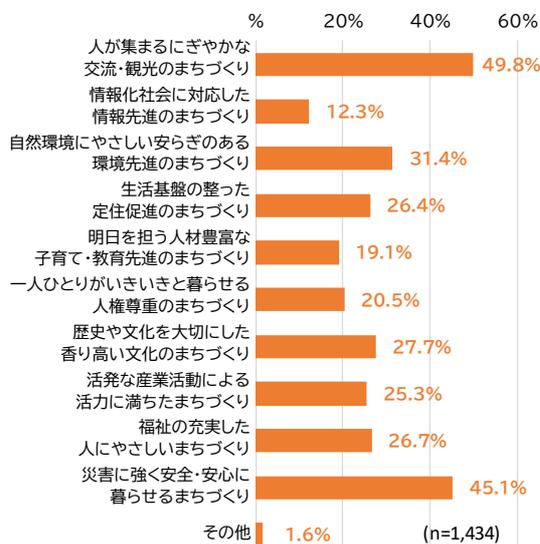


図 鳥取市の今後のまちづくりの方向性  
 出典 鳥取市中心市街地活性化に関する調査 (令和 4 年 3 月)

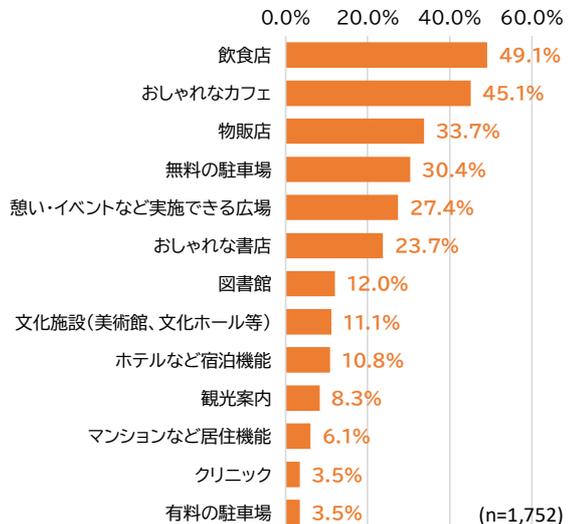


図 鳥取駅周辺に求める機能  
 出典 鳥取駅周辺憩いと賑わい創出実証事業アンケート (令和 6 年 3 月)

## 個別箇所の現状〔鳥取駅周辺〕

- 鳥取駅周辺は、施設などの老朽化が進み、利便性が低下するなど、時代のニーズに沿った対応などが求められている状況です。

**1**

・薄暗く、寂しい印象のケヤキ広場

**2**

・ケヤキ広場内の喫煙スペース  
 ・煙、臭いなどによる環境問題

**3**

・バリアフリー化未整備の地下通路  
 ・老朽化が進み雨天時に雨が侵入

**4**

・まちなかへの限られた横断歩道

**5**

・自家用車の乗入とタクシー駐車場の混在による自動車交通の輻輳

**6**

・老朽化が進む風紋広場  
 ・利活用の促進による賑わい創出

**7**

・老朽化が進む市営駐輪場  
 ・電動キックボードなど新たなモビリティへの対応

**8**

・わかりづらい、利用づらい立地  
 [鳥取市国際サポートセンター]

**9**

・狭小スペースによる案内機能不足  
 [鳥取市観光案内所]

**10**

・高速バス乗り場の分散

**11**

・自家用車、タクシー、バスの混在による自動車交通の輻輳

**12**

・老朽化が進む鳥取バスターミナル  
 ・待合環境の改善

**13**

・バス、一般車、歩行者、自転車の動線が錯綜

**14**

・バス、一般車、歩行者、自転車の動線が錯綜

図 鳥取駅周辺の現状

## 個別箇所の現状〔バスターミナル〕

- バスターミナルは、建設から40年以上が経過して施設の老朽化が進み、待合環境の改善やバス運行の効率性・安全性の確保などが求められている状況です。

**1**

- ・今町交差点の渋滞により、バスの侵入が困難
- ・バス、歩行者、自転車、一般車両の動線が錯綜

**2**

- ・送迎車両がバスターミナル付近に路上駐車し後続車両の進行を阻害

**3**

- ・多目的トイレが待合室の外にあり使いづらい

**4**

- ・バスターミナルビルの老朽化
- ・待合空間の改善（待合スペースとトイレが隣接）
- ・キャッシュレス決済の環境整備・女子トイレが慢性的に混雑

**5**

**6**

- ・高速バス乗り場が狭小なため、利便性が悪く、通行にも支障が発生

**7**

- ・降車バスに一般車両が駐車し、降車に支障が発生

**8**

- ・バスターミナルには、日本交通と日ノ丸自動車の路線バスと高速バスが発着

**【発着便数 (R5.10時点)】**

- 路線バス  
平日 832 便 休日 616 便
- 高速バス  
平日 36 便 休日 44 便

**9**

- ・出口が一車線のため、左折、直進、右折車が混雑

**10**

- ・繁忙期、循環バス・観光バス乗り場が混雑し、通行に支障が発生
- ・循環バス、砂丘行バスの便数が多く、バスが混雑し、わかりづらい

**11**

- ・ターミナル内に横断歩道が3カ所もあり、バス運行に支障が発生
- ・一部アーケードが未整備

**12**

- ・待機バスに停車する際に、一般車両の通行に支障が発生
- ・一般車両が、バスターミナル内に進入、停車する状況が多発

**13**

- ・待機バスが少なく、本社からの回送が多い
- ・積雪の際に除雪の集積場となり待機バスが利用できない

図 バスターミナルの現状

## 2 - 2. 鳥取駅周辺の課題

### 麒麟のまち圏域の課題

- 麒麟のまち圏域では、平成2年をピークに人口が減少し続けています。今後も人口減少、少子高齢化の進行が見込まれる中、誰もが安全で安心して快適に暮らし続けられるまちづくりを進めていく必要があります。
- そうした中、本市は麒麟のまち圏域の中心市として経済、観光、交流、防災の拠点機能の対応が求められています。
- 特に、生活に必要な“移動”を守るため、地域公共交通サービスの維持や交通弱者への対応が不可欠です。

### 鳥取駅周辺の課題

- 鳥取駅周辺の南北方向の道路交通は鉄道の高架によってアクセスできる箇所が限られているとともに、特に、市内のバス路線網は、駅北側のバスターミナルを発着するため、バス交通が駅北側へ集中することも要因となり、渋滞が慢性的に発生し、改善が求められています。
- また、駅周辺の道路網は南北を繋ぐ路線が限られることに加え、駅南側では東西方向を円滑に結ぶ路線がなく経路が複雑に入り組むことや、駅北側では国道53号と並行し、駅前を通過する県道（鳥取福部線・鳥取停車場線）の方が、片側2車線の構造面でも走行性が高く、混雑度が低い状況にあります。災害時の機能強化の観点からも、今後、しっかりと分析・評価した上で、駅周辺道路網を適切に機能強化していくことが求められます。
- 麒麟のまち圏域の住民や来訪者への意向調査によると、様々な世代、特に若者や子育て世代が楽しめる賑わいを創出させるための機能や若者がゆっくりと過ごし、集える場としての機能が求められています。
- 誰もが安全・安心に移動できる歩いて楽しめる空間の確保が求められています。
- 駅での賑わいが駅前商店街や中心市街地へ広く浸透していくための回遊性機能の向上や、回遊させるための仕組み・取組が必要です。
- 来訪者に対する観光や文化などの情報提供・発信機能の充実が必要です。
- 今後、自動運転技術の進展やMaaSの普及に対応した新モビリティに対応することが求められています。
- 近年、多発する災害に備え、一時避難場所や帰宅困難者の受入れ環境などの災害支援の活動拠点等としての機能の充実が必要です。

- 鳥取駅周辺都市改造事業から約半世紀が経過するなかで、時代に沿った交通施設等の機能の再構築が求められています。  
具体的な内容は以下の通りです。
  - 風紋広場、駐輪場、バスターミナル、地下通路などの施設の老朽化へ対応
  - 自家用車、タクシー、バスなど、交通ターミナル内の機能分担、動線整理
  - 一般車送迎場所の確保
  - 地下通路のバリアフリー化など、利用者動線の改善
  - 雨天、降雪などの悪天候時の利用環境の改善やキャッシュレス化など、他の交通モードからシームレスに利用できる環境の整備
  - 待合空間や停留所、トイレ、喫煙スペースなどの待合環境の改善
  - バス運行に係る運行管理の安全性、効率性の向上
  - 駅北側への店舗誘致や駅南との賑わいの連動、コンコースの空間の有効活用による賑わい創出
  - 土日祝日は満車状態となる駐車場不足への対応

#### <課題解消のための鳥取駅周辺の位置づけ>

鳥取駅やバスターミナルが抱える様々な課題を解消し、交通結節点として、モーダルコネクットの強化、滞留性・賑わいの向上、防災機能の充実を図ることで、鳥取駅の拠点性を向上し、鳥取駅周辺や本市、麒麟のまち圏域からヒト・モノ・コトの好循環な流れを生み出す拠点としての鳥取駅周辺の再生が求められています。

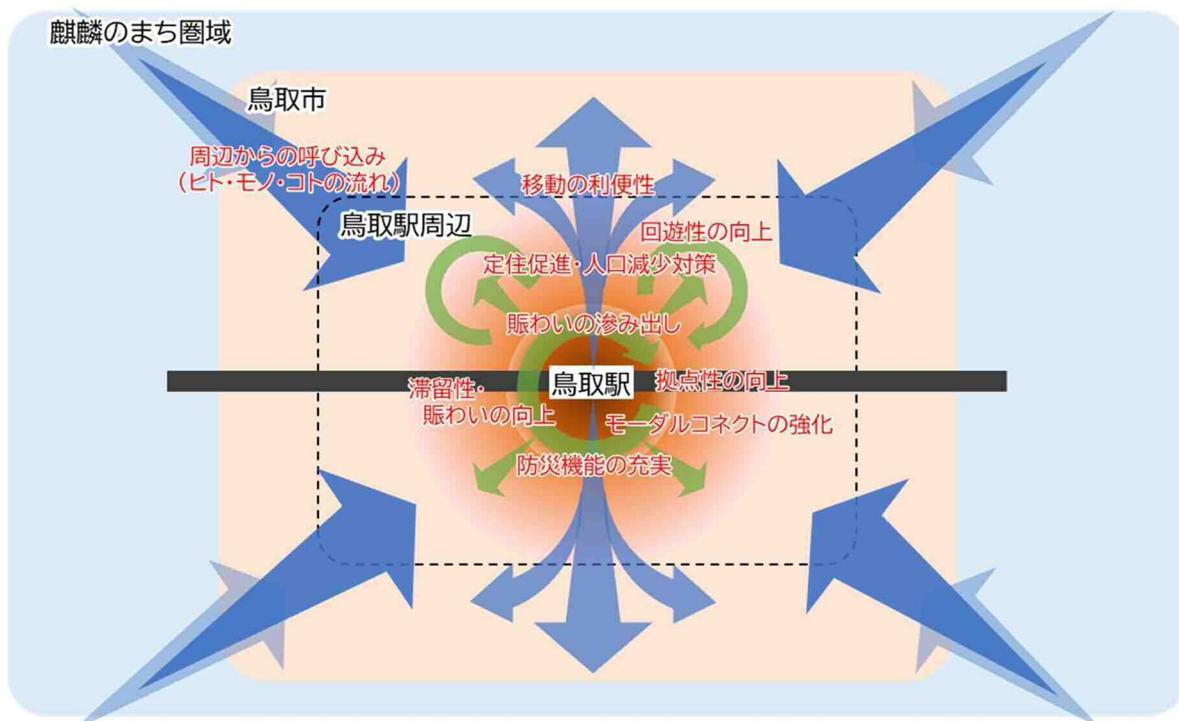


図 鳥取駅周辺の位置づけ

## 3 鳥取駅周辺の再生に向けたビジョン

### 3-1. 基本理念

本計画は、鳥取駅周辺再生基本構想(第2期)の基本理念を踏まえて策定します。

<基本理念>

## 人が集い 交流し 魅力あふれる街『鳥取O<sup>オ</sup>A<sup>ア</sup>C<sup>シ</sup>I<sup>ス</sup>S』の創造

<趣旨>

鳥取駅周辺地区では、市の広域交通の起点(Origin)として魅力的(Attractive)で人々が集い・交流(Communication)が進み、また新時代に対応した各種情報(Information)がますます集積する、持続可能(Sustainable)なまちづくりをめざします。

<実現に向けた視点>

#### ①賑わい

- 人々が集い賑わいを生む駅前空間を「賑わいの起点」として積極的に活用します。
- さらに、その場所から生まれる賑わいを鳥取駅周辺へと拡げることにより、エリア全体の価値が向上することをめざします。

#### ②憩い

- 駅前と鳥取駅周辺との物理的・心理的バリアを取り除き、市民や来訪者が気軽に憩い過ごせる「憩いの場」となるよう、駅前と鳥取駅周辺が一体となったエリア形成をめざします。

#### ③適応

- 公民連携のもと、新型コロナ危機を契機とした社会構造の変化に適応した「鳥取OACIS」の創造をめざします。
- さらに、今後の技術革新や社会的要求の変化などへも柔軟に適応することをめざします。



図 将来像のイメージ(左:道路空間における賑わいや憩いの「場」の創出、右:情報発信・観光交流拠点としての「場」の創出)

出典 鳥取駅周辺再生基本構想(第2期)(令和3年3月 鳥取市)

## 3-2. 目指す将来像と込めるメッセージ

### (1) 目指す将来像と込めるメッセージ

鳥取駅周辺が目指す将来像は以下のとおりとします。

<目指す将来像>

# 次の50年へ。未来創造ステーション

## ワクワクが止まらない、駅からはじまるミライのカタチ

<込めるメッセージ>

ことば	ことばの意味・込めた思い
次の50年へ	今を生きる我々が、次の50年へと繋ぐ架け橋となり、感動に満ちた輝かしい未来を描き、その礎となる中心拠点を創り上げる。
未来創造	産官学金が連携し、新しいライフスタイルと多様な人々の交流の場を築き、未来をリードする人材を育む好循環な環境を形成し、鳥取の未来、山陰の未来、日本の未来を創造する。
ステーション	多様な機能が融合し、人・情報・ビジネスが日々交錯し、革新的なイノベーションが活発に起こる、輝かしい未来を築く創造拠点とする。

<再生の基本コンセプト>

- 麒麟のまち圏域の新たなランドマークとなる、個性豊かなまちづくりの拠点
- 特に若者や子育て世代が集い、楽しみ、交流できる、カジュアルでおしゃれな空間
- 居心地が良く、歩きたくなる空間(ウォークアブル推進都市の実現)
- 通常時は賑わいを創出し、災害時は防災機能を発揮できる拠点



## (2) 再生の重要な視点

人々の価値観や生活様式の多様化、頻発する自然災害、先端技術の急速な進歩など不確実性が高いといわれるこれからのまちづくりにおいて、以下の3つの視点を鳥取駅周辺の再生に向けた重要な視点として位置づけます。

### 市民や民間と共創した持続可能な体制の構築

- 人口減少、少子高齢化が進展するなかで、鳥取駅周辺を麒麟のまち圏域及び本市の持続可能なまちづくりの拠点として位置づけていくためには、市民や事業者、各種団体などと行政が協力し、共にまちを創っていく「共創」の視点をもつことが求められています。
- そのため、賑わい拠点の整備にあたっては、民間の知恵やノウハウを最大限活用できるように、官民連携による取組の推進が重要な視点です。
- また、鳥取駅周辺を再生するための取組を通じて、将来のまちづくりの担い手となる人材を育成するとともに、市民のシビックプライドの醸成が重要な視点です。

### 災害に強いまちづくりの拠点

- 近年、災害が激甚化・頻発化しており、災害に強く安心・安全に暮らしていけるためのまちづくりの拠点整備が求められています。また、鳥取駅周辺は、通勤・通学などの日常生活の移動の拠点であり、災害が発生した場合の一般的な避難や収容、その後の復旧に備えた活動の拠点として防災機能の強化が必要です。
- そのため、災害時の一時避難場所や帰宅困難者の受入空間、豪雪時に対応したバスターミナルなどでの余裕スペースを確保しながら、周辺地域へ繋がる交通ネットワーク拠点として防災機能を充実していくことが重要な視点です。

### 先端技術の導入（スマートシティ）

- 近年、デジタル化が急速に進展し、様々な地域課題の解決に活用が進むなかで、本市でもデジタル未来都市「スマートシティ鳥取」の実現に向けた先端技術の導入を進めています。
- 今後は、AI や IoT 等デジタル技術を活用した自動運転などの新モビリティの導入により、交通弱者の移動手段や持続可能な公共交通を確保するなど、デジタル化により利便性を向上していくことが重要な視点です。



図 夢や希望がかなう、デジタル未来都市「スマートシティ鳥取」  
出典 鳥取市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進方針  
(第7版)(令和4年4月 鳥取市)

### (3) 課題解決の方向性

本計画の基本理念、目指す将来像、再生の重要な視点を踏まえ、課題解決の方向性を以下のとおりとします。

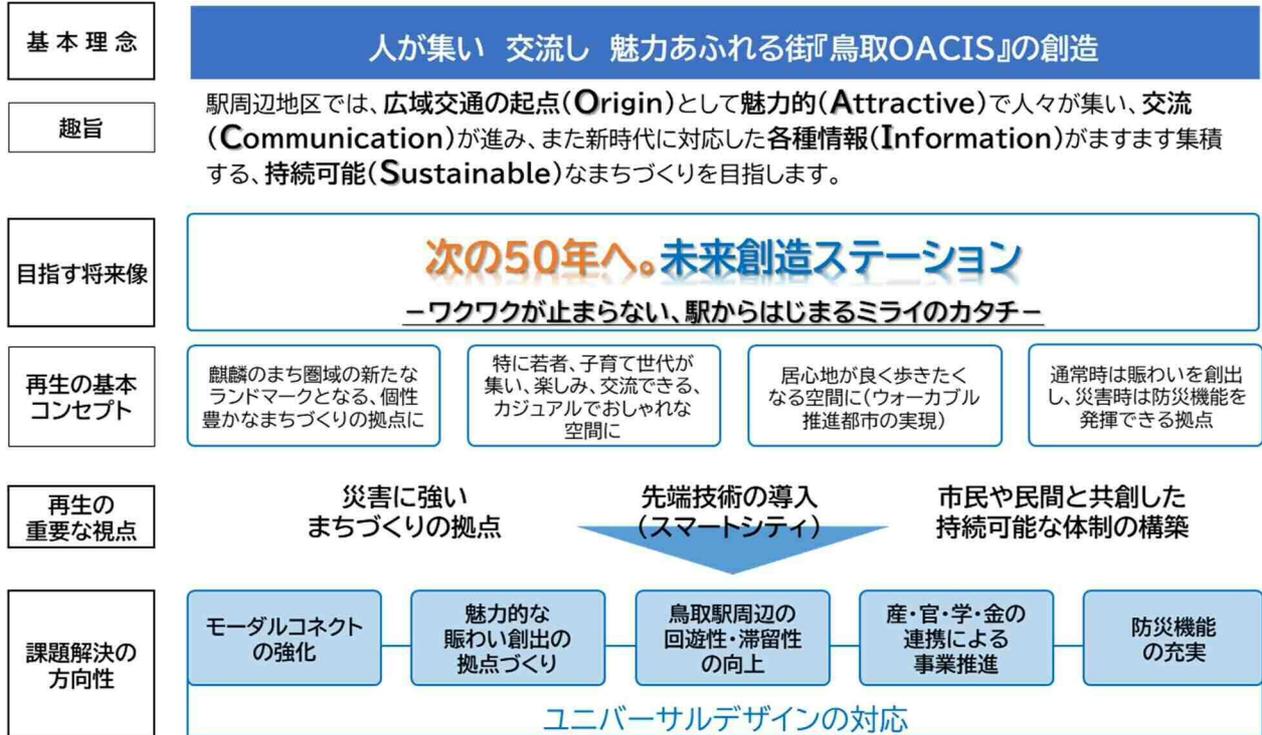


図 課題解決の方向性

#### モーダルコネクットの強化

- バスターミナルや待合環境の老朽化、鉄道とバスの乗り継ぎの不便さ、利用者離れ、サービス水準の低下など公共交通を取り巻く環境は厳しさを増しています。一方で、近年は、自動運転や電動キックボードをはじめとした小型化やパーソナルな新モビリティの導入など多様化してきています。また、駅やバスターミナルは災害時においても移動手段の確保、運行の継続、さらには避難者の受け入れなど防災拠点としての機能が求められています。
- そのため、モーダルコネクットを強化し、市民や来訪者などが利用しやすく、災害にも強い、安心して快適な交通ネットワークの形成を目指していきます。

#### 魅力的な賑わい創出の拠点づくり

- 現在の鳥取駅周辺は市民がワクワク感を持って集い、憩うための魅力や機能が不足しています。麒麟のまち圏域の中心拠点、本市の玄関口としての鳥取駅周辺は、若者や子育て世代が魅力を感じ、駅へ訪れるライフスタイルを創出すること、また観光客やビジネス等の来訪者が鳥取駅に降り立った瞬間から鳥取らしさや活力、賑わいを感じられる拠点となることが求められています。
- そのため、鳥取の新たな顔となるような魅力的な賑わい拠点づくりを行い、市民や来訪者が鳥取駅周辺に集い、楽しむまちづくりを目指していきます。

## 鳥取駅周辺の回遊性・滞留性の向上

- 鳥取駅周辺には高校生等の若者が放課後に安心して過ごせる場所や子育て世代が屋外で安心して交流する場が不足しています。また駅前商店街も若者が気軽に立ち寄れる店舗などが少なく、まちなかで時間を過ごせる居場所づくりが求められています。
- そのため、若者や子育て世代にとっての憩いの場となる滞留空間としての賑わい広場を整備するとともに、子供からお年寄りまでの誰もが安心して鳥取駅周辺を回遊できる動線の確保など、上質で居心地の良い空間を作り出すことで、若者が誇りや愛着を持って暮らし続けたいくなるまちづくりを目指していきます。

## 産・官・学・金の連携による事業推進

- 人口減少に伴う地方財政のひっ迫は、ますます厳しさを増していきます。一方で人口減少に歯止めをかけるためには、魅力や活力あるまちづくりを維持していくことが不可欠です。そのような状況の中、鳥取駅周辺の再生を進めるためには、公共投資のみに依存せず、民間活力の活用も視野に入れた事業の推進が求められます。
- そのため、鳥取駅周辺の再生には、駅前のバスターミナルや賑わい広場等の公共空間への公的投資と併せて、商業施設、住居、宿泊施設等の民間施設の誘導を図り、公共公益施設等複合的な施設整備を民間のノウハウや資金力を活かしながら事業を推進していきます。

## 防災機能の充実

- 近年、全国各地で災害が多発する中、災害時の防災拠点としての交通拠点の機能強化や災害復旧・復興時の公共交通の運行確保、維持の重要性が注目されています。特に本市では、豪雪時におけるバスターミナル機能の維持は重要な課題です。また、観光地として国内外からも多様な観光客が訪れる場所として、鳥取駅周辺での災害時における防災機能の充実が求められています。
- そのため、災害時に駅や駅前広場に避難者を受け入れることを想定した空間整備やバス等の公共交通の運行が維持できるよう積雪にも備えた余裕スペースを考慮したバスターミナルの整備、外国人観光客にも対応した情報案内設備など防災機能の充実を図り、災害に強い鳥取駅周辺を目指します。

## ユニバーサルデザインの対応

- 更なる高齢化の進展や高まるインバウンド需要に対応していくためには、鳥取駅周辺の施設や歩行空間のバリアフリー化、分かり易い案内表示などユニバーサルデザインに配慮することが求められます。
- そのため、鳥取駅周辺の再生に関わる整備においては、多様な利用者を見据えたユニバーサルデザインの対応により魅力のある、誇れる環境の整備を目指します。

<参考:現状～課題解決の方向性の体系的整理>

現 状

■麒麟のまち圏域の現状

- 麒麟のまち圏域は、古くから一体的な生活圏を形成。
- その中で本市は、鳥取砂丘コナン空港や鳥取港が位置する麒麟のまち圏域の交通の要衝地であり、経済、観光、交流、防災の拠点となっている。
- 鳥取駅が位置する本市の中心市街地は、行政中枢機能や商業・業務機能が集積するとともに民藝のまちとして歴史・文化資源を有している。
- 本市の高齢化率が30.54%で、老年人口の割合は今後さらに上昇傾向。年少人口は減少傾向。鳥取市内の各駅乗車人数は令和2年度以降大幅に減少、バス利用者数も減少傾向、全国的にも運転者不足が問題。
- 日本を代表する観光地である「鳥取砂丘」をはじめ、日本一の山城「鳥取城跡」や、国重要文化財「仁風閣」、「鳥取民藝美術館」、「鳥取温泉」、「桜土手」などのポテンシャルの高い観光資源を有す。
- 鳥取県東部の観光入込客数は約350万人/年と、多くの観光客が訪れている。特に、外国人延べ宿泊者数は約1.2万人/年など、今後もインバウンド観光客の増加が期待される。
- 鳥取砂丘周辺ではハイグレードホテルの建設が予定。

■鳥取駅周辺の現状

- 鳥取駅周辺を中心とした鉄道・路線バス・高速バスやタクシーなどの交通結節点。
- 風紋広場、市営駐輪場、バスターミナル、地下通路などの鳥取駅周辺施設等の老朽化が進行。
- 市内の文化施設は建設から半世紀が経過し、複数施設が同時期に改修・改築を迎える。中心市街地の文化・芸術・娯楽施設を充実すべきとの市民意見がある。
- 鳥取駅周辺は、一級河川である千代川の氾濫時に浸水が予測。
- 一時的な避難場所や帰宅困難者の受入れ環境など、今後、大規模な災害が発生した場合の備えが必要な状況。
- 鳥取駅周辺の道路は、緊急輸送道路ネットワークにも位置づけられており、防災拠点を連絡する道路網として災害時に重要な役割を果たすことが求められている。
- 鳥取駅北側のバスターミナルを拠点に市内の東西南北にバス路線が伸び、平日868便/日、休日660便/日(R5時点)と多くのバスが発着。
- 鳥取駅西側の今町2丁目交差点は、主要渋滞箇所指定されるなど、周辺道路が混雑。
- 国道53号は日常利用と観光利用が混在する路線でありながら、片側1車線の区間があるなど交通容量が低く、交通混雑や速度低下が引き起こされている。これにより片側2車線区間の県道鳥取停車場線を經由して今町2丁目交差点に進入する車両も混在するなど、交通形態が複雑になっている。
- 市民アンケートでの今後のまちづくりの方向性として「人が集まるにぎやかな交流、観光のまちづくり:49.8%」や「災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくり:45.1%」などを要望する声が多い。
- 市民アンケートでは、中心市街地活性化について取り組むべきこととして、娯楽・宿泊施設、文化・芸術、商業施設などが挙げられているとともに、麒麟のまち圏域の住民アンケートでは、商店街の活気や景観、駐車場・駐輪場、公共交通に対する評価が低いなど、鳥取駅周辺に賑わい拠点機能の整備や、持続可能な利便性の高い交通サービスの提供が求められている。
- 駅利用者からは飲食店やおしゃれなカフェなどを求める声が多い。
- 鳥取駅周辺は、施設などの老朽化が進み、利便性が低下するなど、時代のニーズに沿った対応などが求められている。

- |   |  |
|---|--|
| <p>&lt;ケヤキ広場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ケヤキ広場は、薄暗く寂しい印象</li> <li>ケヤキ広場の喫煙スペースは、煙や臭いなどによる環境問題が懸念</li> </ul> <p>&lt;まちなかへの導線&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地下通路のバリアフリー化が未整備</li> <li>特に地下通路は老朽化が進み、雨天時に雨が侵入</li> <li>まちなかへの横断歩道は2カ所のみと限られている</li> </ul> <p>&lt;鳥取駅&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取市観光案内所は、狭小スペースによる案内機能不足</li> <li>鳥取市国際サポートセンターは、わかりづらく、利用しづらい立地</li> <li>コンコースは商業店舗に空きがある等、活用が十分でない</li> </ul> | <p>&lt;風紋広場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>風紋広場の利活用の促進による賑わい創出</li> </ul> <p>&lt;北口交通広場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自家用車の乗入とタクシー駐車場の混在による自動車交通の輻輳</li> </ul> <p>&lt;南口交通広場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高速バス乗り場の分散</li> <li>自家用車、タクシー、バスの混在による自動車交通の輻輳</li> </ul> <p>&lt;市営駐輪場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電動キックボードなど新たなモビリティへの対応</li> </ul> |
|---|--|

○バスターミナルは、建設から40年以上が経過して施設の老朽化が進み、待合環境の改善やバス運行の効率性・安全性の確保などが求められている状況。

- |  |  |
|--|--|
| <p>&lt;バスターミナル:ターミナル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バスターミナル西側の交差点では、バス、一般車、歩行者、自転車の動線が錯綜</li> <li>送迎車両がバスターミナル付近に路上駐車し後続車両の侵入を阻害</li> <li>バスターミナルの出口が一車線のため、左折、直進、右折車が混雑</li> <li>バスターミナル内に横断歩道が3カ所もありバス運行に支障が発生</li> <li>一部、アーケードが未整備</li> </ul> <p>&lt;バスターミナル:トイレ、待合環境&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多目的トイレが待合室の外にあり使いづらい</li> <li>女子トイレが慢性的に混雑</li> <li>待合スペースとトイレが隣接する待合環境の改善</li> <li>キャッシュレス決済の環境整備</li> </ul> | <p>&lt;バスターミナル:乗り場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高速バス乗り場が狭小なため、利便性が悪く、通行にも支障が発生</li> <li>繁忙期、循環バス・観光バス乗り場が混雑し、通行に支障が影響</li> <li>循環バス、砂丘行バスの便数が多く、バスが混雑し、わかりづらい</li> </ul> <p>&lt;バスターミナル:降車バス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>降車バスに一般車両が駐車し、降車に支障が発生</li> </ul> <p>&lt;バスターミナル:待機バス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>待機バスに停車する際に、一般車両の通行に支障が発生</li> <li>一般車両が侵入、停車する状況が多発</li> <li>待機バスが少なく、本社からの回送が多い</li> <li>待機バスは積雪の際に除雪の集積場となり利用できない</li> </ul> |
|--|--|

上位・関連計画のまちづくりの方向性

課 題

■麒麟のまち圏域の課題

- 今後も人口減少、少子高齢化の進行が見込まれる中、誰もが安全で安心して快適に暮らし続けられるまちづくり

- 麒麟のまち圏域の中心市として経済・観光・交流・防災の拠点機能の対応

- 生活に必要な“移動”を守るため、地域公共交通サービスの維持や交通弱者への対応

■鳥取駅周辺の課題

- 南北方向の道路交通はアクセスできる箇所が限られていることや、バス交通が駅北側へ集中することが要因となり、渋滞が慢性的に発生し、改善が必要

- 駅周辺の道路網は災害時の機能強化の観点からも、今後、しっかりと分析・評価した上で、駅周辺道路網を適切に機能強化していくことが求められる

- 様々な世代、特に若者や子育て世代が楽しめる賑わいを創出させるための機能や若者がゆっくりと過ごし、集える場としての機能が求められている

- 観光や文化等の情報提供・発信機能の充実

- 誰もが安全・安心に移動できる円滑かつ利便性の高い利用者動線の形成

- 自動運転技術の進展やMaaSの普及に対応した新モビリティの拠点の整備

- 近年、多発する災害に備え、一時避難場所や帰宅困難者の受入れ環境などの災害支援の活動拠点等としての機能の充実が必要

- 駅での賑わいを駅前商店街や中心市街地へ広く浸透していくための回遊性機能の向上や、そのための仕組み・取組が求められている

鳥取駅周辺都市改造事業から約半世紀が経過するなかで、時代に沿った交通施設等の機能の再構築が求められている

- 風紋広場、駐輪場、バスターミナル、地下通路などの施設の老朽化へ対応

- 自家用車、タクシー、バスなど、交通ターミナル内の機能分担、動線整理

- 一般車送迎場所の確保

- 地下通路のバリアフリー化など、利用者動線の改善

- 雨天、降雪などの悪天候時の利用環境の改善やキャッシュレス化など、他の交通モードからシームレスに利用できる環境の整備

- 待合空間や停留所、トイレ、喫煙スペースなどの待合環境の改善

- バス運行に係る運行管理の安全性、効率性の向上

- 駅北側への店舗誘致や駅南との賑わいの連動、コンコースの空間の有効活用による賑わい創出

- 土日祝日は満車状態となる駐車場不足への対応

再生の重要な視点

- 市民や民間と共創した持続可能な体制の構築
- 災害に強いまちづくりの拠点
- 先端技術の導入(スマートシティ)

基本理念

人が集い 交流し 魅力あふれる街  
『鳥取OACIS』の創造

目指す将来像

次の50年へ。未来創造ステーション  
 -ワクワクが止まらない、駅からはじまるミライのカタチ-

課題解決の方向性

モーダルコネクトの強化

魅力的な賑わい創出の拠点づくり

鳥取駅周辺の回遊性・滞留性の向上

産・官・学・金の連携による事業推進

防災機能の充実

ユニバーサルデザインの対応

## 4 取組の方向性

### 4-1. 鳥取駅周辺再整備の基本方針

課題解決の方向性から具体的な取組を導くために、鳥取駅周辺再整備の基本方針として以下の4つを定めます。

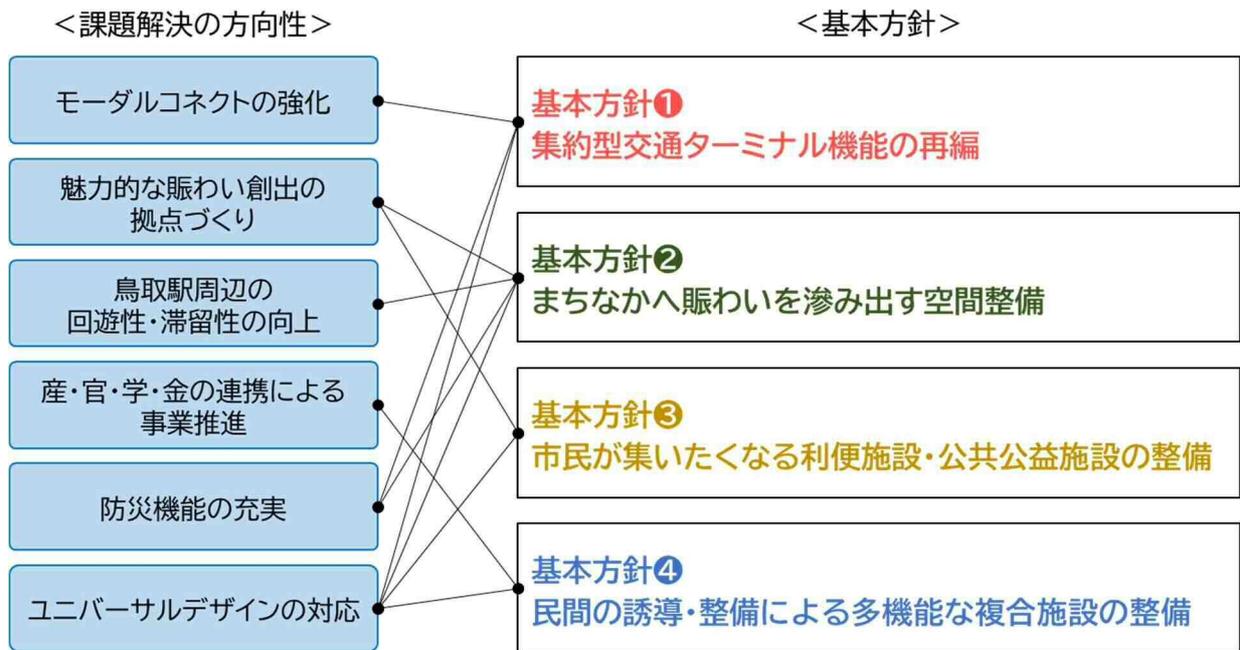


図 課題解決の方向性と基本方針



(イメージパースは目指す姿が実現した一例であり、取組の方向性を示すものです。)

今後、関係者間で協議・調整の上、実現に向けて進めていきます。)

## 基本方針① 集約型交通ターミナル機能の再編

- 鉄道、バス、タクシー、自家用車、レンタカー、自転車などの多様な交通モード間をシームレスに乗り換えができる集約型交通ターミナルへ再編します。
- 災害、豪雪への対応や、将来的には新モビリティへの対応も可能な交通結節点を整備します。

### 求められる役割

- 交通結節機能の強化
- 乗換のシームレス化
- 公共交通の利用促進
- 災害時の防災力強化
- 豪雪時のターミナル機能の維持
- 周辺道路ネットワークの円滑化

## 基本方針② まちなかへ賑わいをしみ出す空間整備

- 若者や子育て世代が、過ごしやすく、回遊しやすい人中心の滞留空間の強化に向けて、賑わい広場や歩行者デッキなどの空間を整備します。
- 子供からお年寄りまで、市民が安心して回遊できる歩行者ネットワークを確保します。
- 地域の活動拠点や多様な人々の交流機会を創出する場として、商店街などのまちなかとの連携に配慮した空間を整備します。

### 求められる役割

- 回遊、滞留機能の強化
- 若者や子育て世代の憩いの空間
- 多様な人々の交流機会創出
- 市街地との賑わい連携
- 祭りやイベント等の地域の活動拠点

## 基本方針③ 市民が集いたくなる利便施設・公共公益施設の整備

- JR やバス利用者などの公共交通利用者が快適に過ごせる待合環境の利便性向上や市民が日常的に駅に集うライフスタイルの創出を目指し、文化施設などの公共公益施設の整備を検討します。

### 求められる役割

- 文化機能の充実
- コンベンション機能の確保※
- まちづくり等の活動の場
- 教育や人材育成などの創造の場
- 地域発の新たなビジネスの創造の場
- 情報発信の充実
- 観光振興の支援
- 福祉機能の確保

## 基本方針④ 民間の誘導・整備による多機能な複合施設の整備

- 既存施設や商店街などとの連携にも配慮しつつ、魅力ある商業機能、宿泊や住居機能、業務やインベーション機能を備えた民間施設整備の誘導など、複合施設の整備を図ります。
- 民間投資を誘導するためには、民間の有するノウハウや資金力を最大限に活かした PPP などの整備手法の活用を検討します。

### 求められる役割

- 商業(収益)機能の確保
- 来街意欲の喚起や来街促進
- 宿泊や住居機能による拠点性強化
- 集客性の向上
- まちなかへの経済波及、循環
- 駐車場等の収益機能の確保

※ 「コンベンション」とは、国内外から特定の分野に興味や知見のある関係者が集まる大規模な催しのことを意味します。沢山の人が集まるため、地域産業の発展が期待されます。

## 4-2. 整備イメージ

現状の鳥取駅周辺は、交通や広場などの機能が分散し、利便性や魅力が低下しています。将来は機能を集約して利用者の利便性、快適性を高め、魅力ある鳥取駅周辺となるよう再整備を行います。

### <現状の鳥取駅周辺>

機能の分散や施設の老朽化などにより利便性が低下し、魅力も低下しています。

- 交通機能や広場の分散
- 駅南北の機能の分散
- 商業施設などの魅力の低下
- 休日などでの駐車場の容量不足 など



図 現在の鳥取駅周辺の機能配置

### <将来の鳥取駅周辺>

交通ターミナルや広場など一体性を持った各種機能の集約により、乗り換えの利便性や駅前広場の賑わいを向上します。また、駅南北の一体的な機能強化や魅力ある公共公益施設・民間施設の導入、まちなかとの一体感のある回遊性、滞留性の向上、駐車場の集約、再編などを行います。

- 交通ターミナルの集約
- 広場機能の集約
- 駅南北の機能強化
- 公共公益施設の機能配置
- 民間施設の誘導
- まちなかとの一体感
- 駐車場の集約、再編 など



図 将来の鳥取駅周辺の機能配置

目指す将来像の実現に向けて、駅に集う人のワクワクがとまらない鳥取駅周辺の再整備に取り組みます。

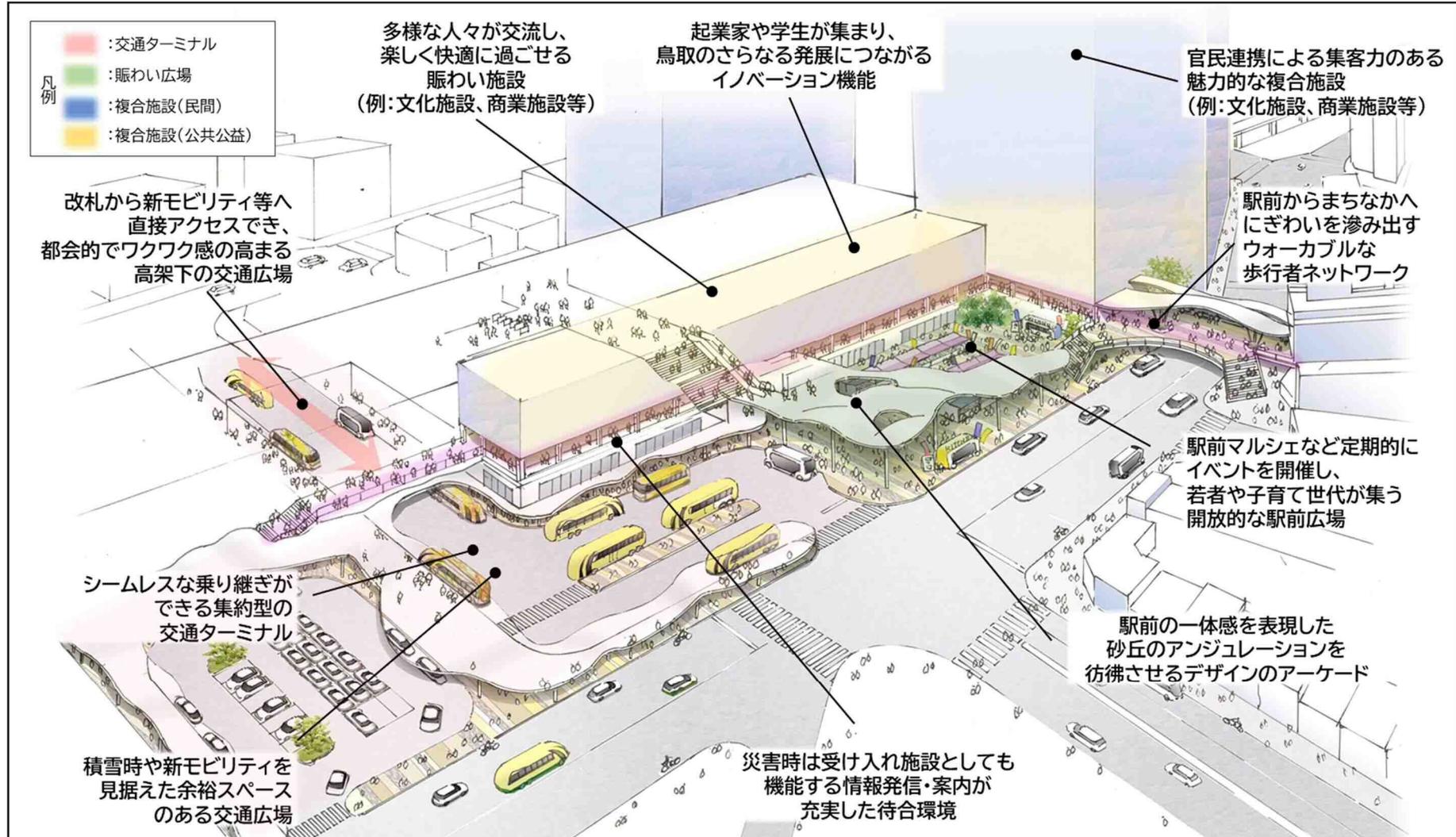


図 鳥取駅周辺の再整備のイメージ

(イメージパースは目指す姿が実現した一例であり、取組の方向性を示すものです。今後、関係者間で協議・調整の上、実現に向けて進めていきます。)

※ 「アンジュレーション」とは、波のうねりや波動、地表の起伏のことを意味します。

## 4-3. 基本方針別の取組内容について

### (1) 基本方針別の取組内容

基本方針別に以下に示す内容を取り組み、鳥取駅周辺再整備を進めます。

#### 基本方針① 集約型交通ターミナル機能の再編

- 鉄道、バス、タクシー、自家用車、レンタカー、自転車などの多様な交通モード間をシームレスに乗り換えができる集約型交通ターミナルへ再編します。
- 災害、豪雪への対応や、将来的には新モビリティへの対応も可能な交通結節点を整備します。

##### 求められる役割

- |            |                 |                 |
|------------|-----------------|-----------------|
| ○交通結節機能の強化 | ○乗換のシームレス化      | ○公共交通の利用促進      |
| ○災害時の防災力強化 | ○豪雪時のターミナル機能の維持 | ○周辺道路ネットワークの円滑化 |

求められる役割を実現するための施策を以下のとおりとします。

##### 具体的な施策

- 交通結節機能の強化
  - ・バスターミナル、交通広場の再編
  - ・バス、タクシーと一般車の分離
  - ・駐車場の集約、再編
  - ・新モビリティサービスの導入
  - ・シェアリングモビリティサービスの導入
- 乗換のシームレス化
  - ・バスターミナル、交通広場の再編 ※再掲
  - ・駐車場の集約、再編 ※再掲
  - ・バスターミナル、交通広場と既存施設も含めた再編
  - ・MaaS環境整備等による乗り継ぎの円滑化
- 公共交通の利用促進 ○災害時の防災力強化
  - ・待合環境の整備、交通情報の発信
- 災害時の防災力強化 ○豪雪時のターミナル機能の維持
  - ・災害時の交通機能の維持、余裕スペースの確保
- 周辺道路ネットワークの円滑化
  - ・駅周辺道路の円滑化

など

※具体的な整備内容は、今後実施する各種調査結果や社会情勢等を踏まえて検討していきます。

<具体的な施策のイメージ(抜粋)>

■バスターミナル、交通広場の再編

バスターミナル及び交通広場の再編を行い、利用しやすく機能が集約されたターミナルを整備します。また、乗り継ぎ利便性や駅を介した南北のアクセス性を高めるために、高架下に交通広場を設けます。改札との近接性も高めることで、来訪者の玄関口となる鳥取駅周辺で、観光やビジネスへのワクワク感を高めるものとしてします。

求められる役割 ○交通結節機能の強化 ○乗換のシームレス化



図 高架下交通広場のイメージ

<交通広場の再編における留意点(鳥取駅周辺リ・デザイン会議意見等より)>

- 出入口部の安全性や円滑性
- バスやタクシーと一般車の輻輳
- バス待機バスの適正量の確保
- バス運転手の待機空間への配慮
- 自転車やレンタサイクル、レンタカー等の主幹交通以外の乗り継ぎ利便性の確保 など

■災害時の交通機能の維持、余裕スペースの確保

バスターミナル内に余裕スペースを確保し、豪雪時の雪の退避場所や、臨時運行が必要となるバスの待機スペースとするなど、災害時においても地域の基幹交通であるバス路線が可能な限り維持できるよう機能を検討します。

求められる役割

- 災害時の防災力強化
- 豪雪時のターミナル機能の維持



図 豪雪時の鳥取駅

### ■新モビリティサービスの導入

将来的には自動運転をはじめとする新モビリティが導入されることが想定されます。そうした際に柔軟な受け入れができるように、余裕スペースの確保や通信環境の整備などに取り組みます。

求められる役割  
 ○交通結節機能の強化



図 新たなモビリティのイメージ

出典：2040年、道路の景色が変わる(国土交通省)



図 本市の自動運転バス試乗体験会

### ■駅周辺道路の円滑化

鳥取駅周辺には2か所の主要渋滞箇所(今町2丁目、天神町)があるととも、本市内外を運行する複数のバス路線が輻輳しています。交通ターミナルの整備により周辺交通流動が変化し、道路交通の円滑化に繋がる取組となるよう検討します。

求められる役割  
 ○周辺道路ネットワークの円滑化

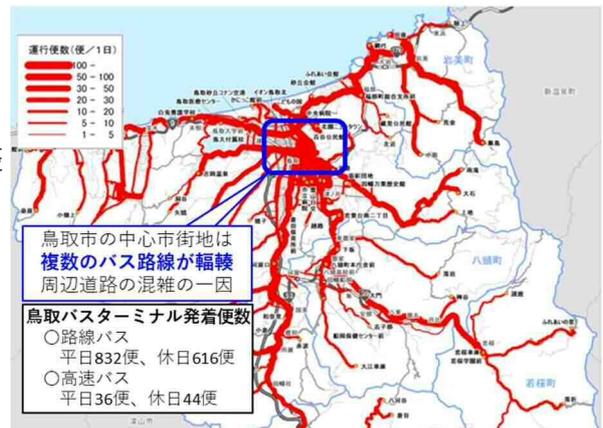


図 バスの区間別運行便数

出典：鳥取県東部地域公共交通計画(令和5年9月変更 鳥取県東部地域公共交通活性化協議会)

### ■待合環境の整備、交通情報の発信

公共交通の待ち時間を充足した時間にできるよう、待合環境の高質化を図ります。また、併せて鳥取駅周辺の情報発信の拠点となるよう機能を充実します。

災害時においては、一時避難場所としても機能できるように、備蓄品の保管や設備投資を行います。

求められる役割  
 ○公共交通の利用促進 ○災害時の防災力強化



図 高質な待合環境のイメージ

出典：三宮周辺地区再整備基本構想

## 基本方針② まちなかへ賑わいを滲み出す空間整備

- 若者や子育て世代が、過ごしやすく、回遊しやすい人中心の滞留空間の強化に向けて、賑わい広場や歩行者デッキなどの空間を整備します。
- 子供からお年寄りまで、市民が安心して回遊できる歩行者ネットワークを確保します。
- 地域の活動拠点や多様な人々の交流機会を創出する場として、商店街などのまちなかとの連携に配慮した空間を整備します。

### 求められる役割

- 回遊、滞留機能の強化
- 若者や子育て世代の憩いの空間
- 多様な人々の交流機会創出
- 市街地との賑わい連携
- 祭りやイベント等の地域の活動拠点

求められる役割を実現するための施策を以下のとおり考えます。

### 具体的な施策

- 回遊、滞留機能の強化
  - ・デッキ、平面広場等のオープンスペースの整備
  - ・オープンスペース、ベンチ等休憩施設の整備
  - ・一時避難場所の整備、帰宅困難者の受け入れ
  - ・地下通路の改良、パデストリアンデッキの整備
  - ・新モビリティサービスの導入
- 若者や子育て世代の憩いの空間
  - ・デッキ、平面広場等のオープンスペースの整備 ※再掲
  - ・オープンスペース、ベンチ等休憩施設の整備 ※再掲
- 多様な人々の交流機会創出
  - ・デッキ、平面広場等のオープンスペースの整備 ※再掲
  - ・オープンスペース、ベンチ等休憩施設の整備 ※再掲
- 市街地との賑わい連携
  - ・共通クーポン、イベントなどの商店街との連携
- 祭りやイベント等の地域の活動拠点
  - ・デッキ、平面広場等のオープンスペースの整備 ※再掲
  - ・オープンスペース、ベンチ等休憩施設の整備 ※再掲
  - ・一時避難場所の整備、帰宅困難者の受け入れ ※再掲

など

※具体的な整備内容は、今後実施する各種調査結果や社会情勢等を踏まえて検討していきます。

<具体的な施策のイメージ(抜粋)>

■デッキ、平面広場等のオープンスペースの整備

若者や子育て世代が駅前広場に集い、楽しみ、滞留できる空間を創出するために広場等のオープンな空間を整備します。広場空間は日常的に滞留空間として利用するだけでなく、地域のイベントや災害時の一時避難場所、積雪時の雪の退避場所など、多様な活用方法が期待されます。

求められる役割

- 回遊、滞留機能の強化
- 若者や子育て世代の憩いの空間
- 多様な人々の交流機会創出
- 祭りやイベント等の地域の活動拠点



図 広場空間のイメージ



図 姫路駅の駅前広場イベントスペース



図 福井駅の多目的な広場(左:ハピテラス(全天候型)、右:屋外)



図 博多駅の駅前広場イベントスペース



図 金沢駅の駅前広場

## ■地下通路の改良、ペDESTリアンデッキの整備

鳥取駅周辺とまちなかとは、地下通路やペDESTリアンデッキ等で接続し、既存の商店街や商業施設とも物理的に連携できるような再整備を行います。また、まちなかとの連続性を意識した回遊性や滞留性の創出に繋がる整備を行います。

求められる役割 ○回遊、滞留機能の強化



図 広場空間のイメージ



図 まちなかと一体的な駅前広場(姫路駅)  
 出典 国土交通省



図 まちなかまで見渡せる景観(新潟駅)  
 出典 新潟都心地域の目指す姿



図 商業施設を繋ぐ駅前のデッキ(仙台駅)



図 まちなかを見渡すことができる  
 駅前のデッキ(徳山駅)

### 基本方針③ 市民が集いたくなる利便施設・公共公益施設の整備

- JR やバス利用者などの公共交通利用者が快適に過ごせる待合環境の利便性向上や市民が日常的に駅に集うライフスタイルの創出を目指し、文化施設などの公共公益施設の整備を検討します。

#### 求められる役割

- 文化機能の充実
- 教育や人材育成などの創造の場
- 情報発信の充実
- コンベンション機能の確保
- 地域発の新たなビジネスの創造の場
- 観光振興の支援
- まちづくり等の活動の場
- 福祉機能の確保

求められる役割を実現するための施策を以下のとおり考えます。

#### 具体的な施策

- 文化機能の充実
  - ・候補案：図書機能、展示機能、ホール機能
- コンベンション機能の確保
  - ・コンベンション施設の導入
- まちづくり等の活動の場
  - ・インキュベーション施設、まちなかキャンパスなどの導入
  - ・公民学連携によるまちづくりプラットフォームの導入
- 教育や人材育成などの創造の場
  - ・子育て施設(一時預かり所、学習スペースなど)の導入
  - ・社会参加機能の導入
  - ・インキュベーション施設、まちなかキャンパスなどの導入 ※再掲
- 地域発の新たなビジネスの創造の場
  - ・インキュベーション施設、まちなかキャンパスなどの導入 ※再掲
- 情報発信の充実 ○観光振興の支援
  - ・統合型情報発信施設の整備
- 福祉機能の確保
  - ・社会参加機能の導入 ※再掲

※具体的な整備内容は、今後実施する各種調査結果や社会情勢等を踏まえて検討していきます。

<具体的な施策のイメージ(抜粋)>

#### ■文化機能の充実(候補案：図書機能、展示機能、ホール機能)

既存の複数の文化施設が老朽化していることから、鳥取駅周辺への機能集約を検討します。ただし、施設の集約に係るリスクやコストを勘案し、実現可能性を踏まえた検討が必要です。

#### 求められる役割

- 文化機能の充実
- コンベンション機能の確保



図 博多駅直結のホール  
出典：JR九州ホール HP

### ■公民学連携によるまちづくりプラットフォームの導入

公共と民間、大学等が連携して鳥取駅周辺再整備後にまちに賑わいをつくり、維持していくことをマネジメントする組織が必要です。鳥取駅周辺の複合施設内などフィールドに近い場所に拠点を設け、さまざまな立場の人達がふれあい、次の世代の人材を育てます。

#### 求められる役割

○まちづくり等の活動の場



図 松山アーバンデザインセンターの活動の様子  
出典 松山アーバンデザインセンター年間報告書 2022

### ■インキュベーション施設、まちなかキャンパスなどの導入

駅の複合施設は、中心市街地へのアクセスが良いことから、インキュベーション施設やまちなかキャンパスなどの地域の学生や若者が集う空間を整備することを検討します。

#### 求められる役割

○まちづくり等の活動の場

○教育や人材育成などの創造の場

○地域発の新たなビジネスの創造の場



図 札幌駅近接のインキュベーション施設  
(ラウンジやセミナールーム、貸しオフィスなどがあり、定期的にイベントを開催)  
出典 HOKKAIDO xStation01 -Social Good Birth Hub- HP

### ■統合型情報発信施設の整備

鳥取駅周辺の情報発信の場として、地域情報や観光情報などの情報発信施設の整備を検討します。また、災害時には、災害情報を発信する場として活用します。なお、情報発信は国内外からの来訪者に向けたものとし、多言語化などにも配慮します。

#### 求められる役割

○情報発信の充実

○観光振興の支援



図 情報発信施設のイメージ  
出典 三宮周辺地区再整備基本構想

## 基本方針④ 民間の誘導・整備による多機能な複合施設の整備

- 既存施設や商店街などとの連携にも配慮しつつ、魅力ある商業機能、宿泊や住居機能、業務やインベーション機能を備えた民間施設整備の誘導など、複合施設の整備を図ります。
- 民間投資を誘導するためには、民間の有するノウハウや資金力を最大限に活かした PPP などの整備手法の活用を検討します。

### 求められる役割

- 商業(収益)機能の確保
- 来街意欲の喚起や来街促進
- 宿泊や住居機能による拠点性強化
- 集客性の向上
- まちなかへの経済波及、循環
- 駐車場等の収益機能の確保

求められる役割を実現するための施策を以下のとおり考えます。

### 具体的な施策

- 商業(収益)機能の確保
  - ・スーパーや百貨店、コンビニ、カフェ、飲食などの導入
  - ・マンション、ホテルなどの導入
- 来街意欲の喚起や来街促進
  - ・スーパーや百貨店、コンビニ、カフェ、飲食などの導入 ※再掲
- 宿泊や住居機能による拠点性強化
  - ・マンション、ホテルなどの導入 ※再掲
- 集客性の向上 ○まちなかへの経済波及、循環
  - ・スーパーや百貨店、コンビニ、カフェ、飲食などの導入 ※再掲
  - ・マンション、ホテルなどの導入 ※再掲
  - ・駐車場の集約、再編
- 駐車場等の収益機能の確保
  - ・駐車場の集約、再編 ※再掲

など

※具体的な整備内容は、今後実施する各種調査結果や社会情勢等を踏まえて検討していきます。

<具体的な施策のイメージ(抜粋)>

### ■商業、宿泊、住居機能の導入

集客力の高い機能を鳥取駅周辺へ誘致することで、来街意欲を高め、まちなかへの波及効果を期待します。スーパーや百貨店等の買物できる環境のほか、ホテルやマンションなどの宿泊や住居機能の誘致も検討し、拠点性を高めます。

#### 求められる役割

- 商業(収益)機能の確保
- 来街意欲の喚起や来街促進
- 宿泊や住居機能による拠点性強化
- 集客性の向上
- まちなかへの経済波及、循環

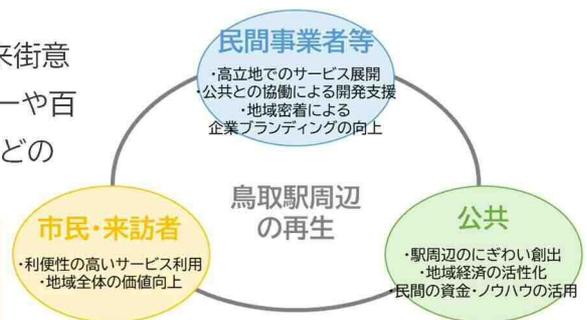


図 民間投資によるメリット



## (2) 期待される効果

4つの基本方針に基づき、取り組む鳥取駅周辺の再整備においては、交通結節機能の強化や広場空間における回遊・滞留機能の強化による賑わい創出、公共公益施設などの整備による拠点性強化、さらには民間投資による地域経済の好循環を生み出すことが期待されます。

鳥取駅周辺の再整備は、駅に留まることなく、まちなかを含めた周辺地域へ広範囲に波及効果を及ぼすことが期待されます。またその効果は、短期的に発現する直接効果に加えて、中長期的に波及する効果、さらには、将来、地域へ及ぼす影響として広がり、目指す将来像の実現へ繋がっていきます。



民間施設(賑わい機能)

▲富山駅(商業施設)



複合施設(公共公益機能)

▲博多駅(ホール)



賑わい広場(全天候型)

▲福井駅(ハビテラス)



賑わい広場(イベント)

▲姫路駅

▲富山駅

▲金沢駅

図 機能と鳥取駅周辺への波及

<参考:期待される効果と地域への影響のロジックの例>

駅周辺の再生によって、地域へ及ぼす多様な効果が期待されます。今後、具体的な整備内容に応じてどのような効果が発現されるか体系的に整理したイメージは以下のとおりです。

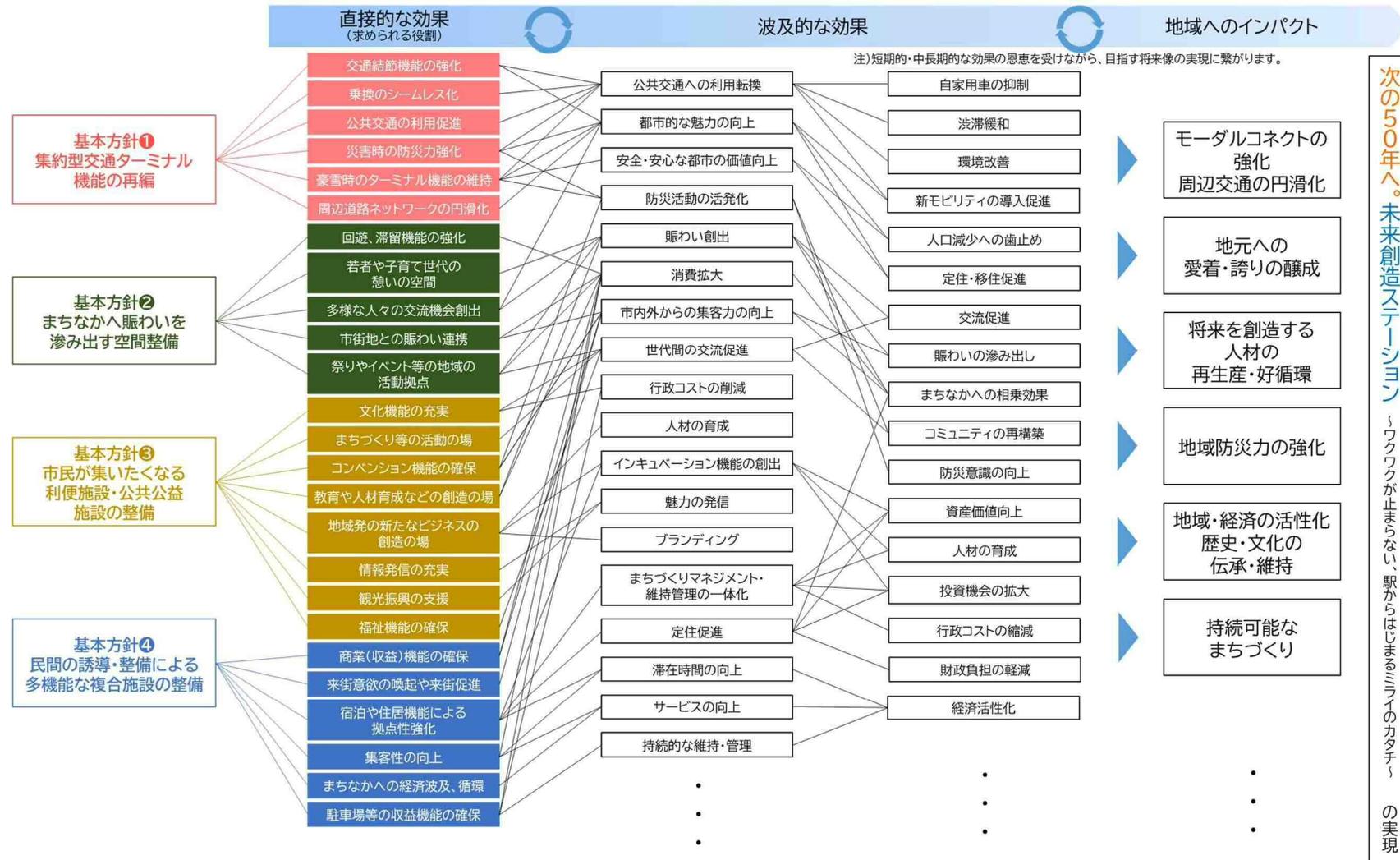


図 期待される効果の発現のイメージ

### (3) 駅で育まれるワクワク

#### ① 駅利用者のペルソナ※

鳥取駅周辺の再生により、若者や子育て世代をはじめとする市民や観光客がワクワクを感じながら、駅に集い、楽しみ、語らい、過ごし、学び、考え、交流できる機能を整備し、鳥取に住む人を育て鳥取に住みたいと思う人の流れを生みだし、循環し続けるミライを創造します。

<p><b>ペルソナ①</b>  <b>地元高校生 10代</b>                  ・通学は路線バスから自転車に乗り換えて通っている                  ・休日は郊外のイオンへ行く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 駅で気軽に勉強したり休憩したりできる場所がない。</li> <li>● 鳥取バスターミナルでバスを降りてから駐輪場までが遠く、毎朝不便に感じている。</li> <li>● 学校帰りや休日に友達と遊びに出かける場所が少ない。</li> </ul>	<p><b>ペルソナ②</b>  <b>ファミリー 30代</b>                  ・本市に住んで子供2人を育てており、移動手段は自家用車が多い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 休日は車で郊外の大型施設に出かけているが、距離が遠く、移動が負担になっている。</li> <li>● 子どもを遊ばせる場所がいつも同じ場所で刺激がない。また、子育ての事について話せる知り合いを求めている。</li> </ul>	<p><b>ペルソナ③</b>  <b>夫婦 60代</b>                  ・大阪在住、夫婦での旅行。列車で来たので公共交通で鳥取を巡る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 鳥取を象徴する砂丘などのイメージが鳥取駅周辺になく、さみしい感じがした。</li> <li>● お昼ご飯を食べたいが、商店街は閉まっている。</li> <li>● 鳥取駅からバスに乗って砂丘に行きたいが、どのバス停から乗って、何時に出るか分かりにくい。</li> </ul>
--	--	---

次の50年へ。未来創造ステーション  
 -ワクワクが止まらない、駅からはじまるミライのカタチ-

**ペルソナ① 地元高校生 10代**

麒麟のまち鳥取市美術展

休日は、友達と複合施設内で人気アーティストの美術展やコンサートを観たり、おしゃれなカフェでスイーツを食べたり青春を謳歌している。

列車やバスの待ち時間や送迎を待つ間に、友達とベンチや駅前広場でおやつを食べながら語りあって過ごしている。

部活のない放課後は、商店街のカフェや駅近くの図書館で友達と一緒に勉強している。

広場空間でくつろぐ人達(福井駅)

列車と路線バス、自転車(駐輪場)の乗り換えがスムーズになり、通学の負担が減った。

駅と一体となった図書館(徳山駅)

出典 徳山駅前図書館HP

※ 「ペルソナ」とは、マーケティング分野においてサービスを提供する仮想的な人物像のことを意味します。

ペルソナ② ファミリー 30代

複合施設内の子育て施設で知り合った同世代の親子と一緒に週末の駅前マルシェに参加するのが楽しみ。

駅前の親子向けイベント(姫路駅)

駅前広場で子供を遊ばせたり、家族で食事をしたり、映画を見たり、休日は郊外から駅前や商店街で過ごすようになった。

鳥取駅周辺で遊んだ帰りは、図書館で本を借りたり、ウィンドウショッピングをして、親子で買物を楽しんでいる。

駅前広場で楽しむ子供達

車の移動距離も短くなって、移動がコンパクトになった。

出典 たじみ DMO

駅に直結した商業施設(福井駅)

ペルソナ③ 夫婦 60代

駅を出ると鳥取を象徴するシンボルがあったので、久しぶりに夫婦で並んで写真を撮った。

鳥取を代表する観光地(鳥取砂丘)

砂丘行のバスの停留所と出発時刻が待合所ですぐに確認できたので、座って待ちながら旅行の予定を考える。

駅のホテルに荷物を置き、昼食は観光案内所で案内ロボットにオススメしてもらった商店街のカレー屋さんへ行くことに。



イメージ

高質な待合環境(三ノ宮駅)

出典 三宮周辺地区再整備基本構想

鳥取の工芸品・民芸品のお土産売り場

出典 鳥取市観光サイト

帰りの列車まで時間があつたので、駅の飲食店で地酒と旬の食材を満喫した。

## ② 駅利用者が起こすイノベーション

鳥取の未来をけん引する人材が駅を拠点に集い、出会い、学び、交流し、活発なイノベーションを起こすことで、鳥取の魅力・磁力を高め、新たな人材を育むなど、さらなる好循環を創造します。

### 学生や若手社会人もまちづくりを学ぶ機会

- まちなかキャンパスで、複数校の学生や若い社会人、地域住民、自治体などが集まってまちづくりワークショップを行うなど、まちづくりを通じて様々な立場の交流の場を生みだします。
- まちなかキャンパスで、地域住民や学生、教職員が集い、地元企業が講座を開催してまちについて語り合う機会があるなど、若者のまちへの愛着を育みます。



### だれもが積極的にビジネスに挑める機会

- インキュベーション施設のような、起業家(イントレプレナー、アントレプレナー※)が積極的に新しいビジネスを起こせる環境があるため、新たな取組みにチャレンジする人達が集まります。
- シェアオフィスなど、仕事をする場所に困らないため、多様な働き方が実現します。



### 商店街や地元企業が新たな商品を売り出す機会

- 商店街や駅前広場で、定期的にマルシェやイベントを開催して、多様な人が集う機会を設けます。
- チャレンジショップなどで、地元企業や他地域からも新しい商品を手軽に売り出せる場があり、新たな取組みに挑戦しやすい環境をつくれます。



出典 にいがた観光ナビ

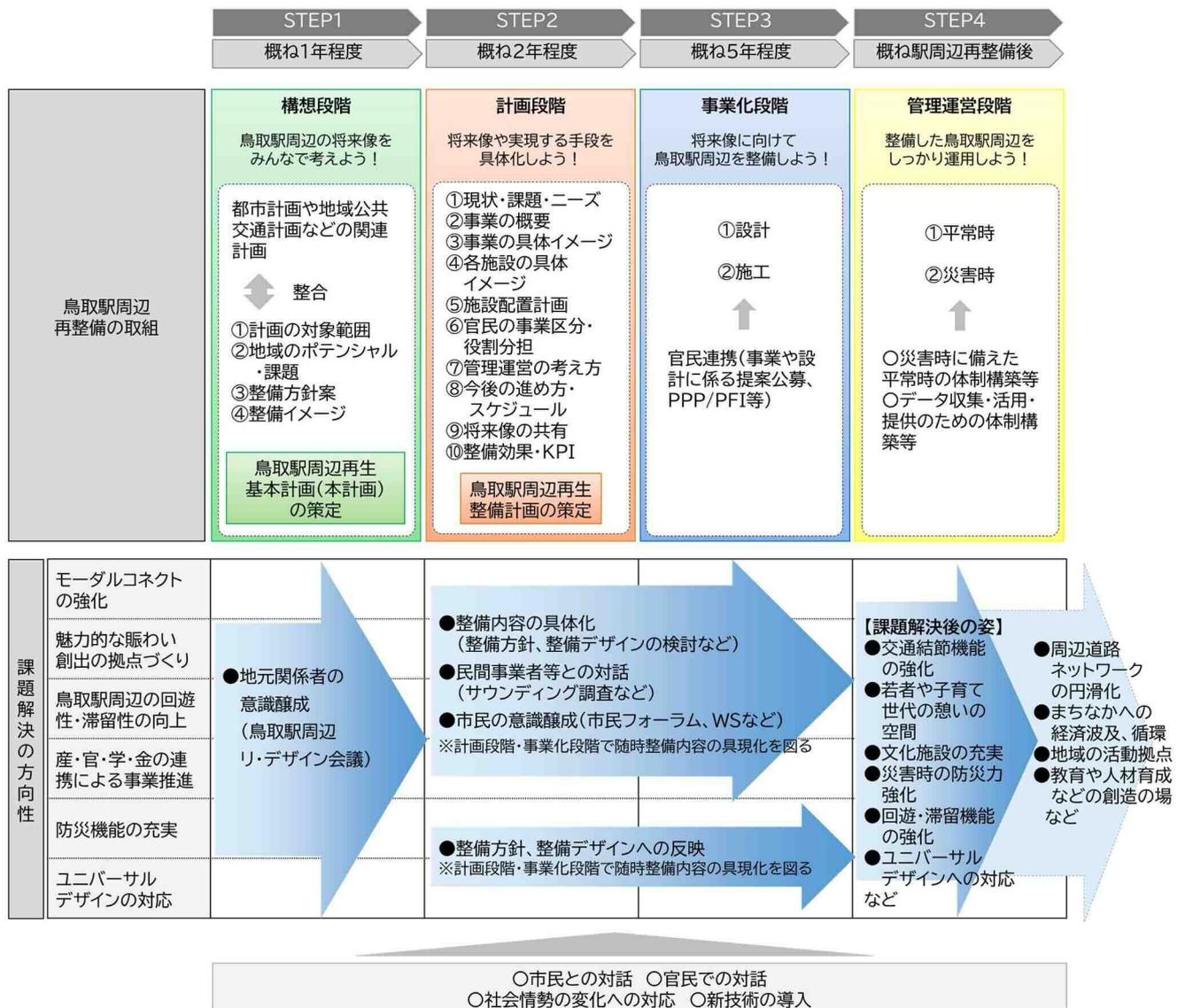
※ 「イントレプレナー」とは、既存の組織や企業内で、新しいアイデアやプロジェクトを立ち上げ、それを推進していく人、「アントレプレナー」とは、新しい事業や企業を立ち上げ、経営する人を意味します。

## 5 鳥取駅周辺の再生に向けて

### 5-1. 今後のスケジュール

本計画は鳥取駅周辺の再生に向けて、再整備の方向性や目指す将来像を示しているものです。今後、本計画の実現のために、実態調査の実施や詳細イメージ・整備手法の検討などを行い、鳥取駅周辺再生整備計画をとりまとめていくこととします。これにより、鳥取駅周辺再整備の具体的な方向性が定まり、産官学金が一体となった事業化を行うことができ、設計・施工などの実現的な段階へ進むことができます。

鳥取駅周辺の再生は整備して終わりではなく、その後の管理運営をどのようなスキームで行うかも重要な視点です。計画の検討に当たっては、関係団体と連携して管理運営の視点も留意しながら、麒麟のまち圏域の拠点として賑わいやイノベーションを生み出すにふさわしい鳥取駅周辺再整備を行います。



※今後策定する整備計画や整備手法に応じて、整備の内容・時期、それに伴う事業効果の発現時期などが変わってきます。引き続き、社会情勢等にも留意しながら、市民、事業関係者の意見を踏まえ、再整備を進めていきます。

図 鳥取駅周辺の再生に向けた進め方

## 5 - 2. 今後の検討課題

本計画を作成するにあたり、関係各者からの意見を踏まえ今後も検討を継続すべき事項を整理します。これらの課題は今後、鳥取駅周辺の再生を進めるなかで、関係者と調整を重ねながら課題解決に向けて取り組みます。

### 市民・地元関係者との継続的な対話

- 鳥取駅周辺再整備後も多くの人に愛され続ける鳥取駅周辺としていくためには、地元関係者と連携して、中心市街地の活性化も含めた視点で整備のあり方を検討していくことが重要です。
- 今後は、市民などの意見も踏まえて駅周辺に必要な機能を精査し、実現可能性を勘案しながら、具体的な内容を検討します。
- また、新たな都市的機能を整備する上で、地域固有の歴史や文化、地域産業の伝承・維持は不可欠であり、市民などの意見も反映しながら地域に調和したデザインなどによる施設整備を検討していきます。
- また、施設が完成してからではなく、計画段階から市民や地元関係者との対話を継続し、賑わい広場や公共空間をどのように活用していくかなど、完成後の使い方を一緒になって考えていくことが重要です。

### まちづくりの担い手と管理・運営の一体的なあり方

- 鳥取駅周辺の再生によって、新たに整備される施設が持続的に更新・発展していくためには、施設の管理・運営に加え、まちづくりも含めた一体的なマネジメントを行う組織が重要であると考えます。
- 上記と同様に計画段階から、将来的な管理・運営やまちづくり組織のあり方についても地元地域や関係機関、民間事業者などと対話しながら進めることが必要です。
- 特に、複合施設などを考えていく上では、民間投資を誘導することに加えて、公共公益施設の再編・統合や収益確保が見込まれる駐車場施設の導入などの可能性も含めて多角的な視点をもって検討を進めます。

## 適切なニーズなどの把握

- 官民連携による複合施設のあり方や PPP などの整備手法の活用を検討にあたっては、社会情勢などを踏まえ民間投資の可能性を適切に把握していくことが重要であるため、今後は、具体的な整備計画の策定に向けて、幅広く民間事業者などを対象にサウンディング調査を進めていきます。
- また、行政や関係団体との連携も不可欠であり、例えば、鳥取駅を中心とした中心市街地全体でのウォークアブルのあり方、老朽化した公共公益施設の再編・統合などの方針、既存のインキュベーション施設等の役割分担など、各まちづくりなどの方針との整合性や調整に取り組みます。
- 駅周辺再整備による民間事業者等の機運の高まりに併せて、ニーズの把握やハード面だけの連携に留まらず、既存の取組みも含めたソフト面の連携も視野に入れた検討も必要です。

## コミュニケーション戦略

- 鳥取駅周辺の再整備は、長い期間をかけて取り組むプロジェクトであり、構想段階から市民をはじめとした地域全体の機運を醸成するためには、積極的な情報発信が重要と考えます。
- 計画段階、事業化段階など各段階に応じて、継続的に情報発信を行うことで、地域の機運の醸成やそれに伴う民間事業者の投資意欲の誘発など、スピード感をもった事業の推進にもつながることが期待されます。
- 広く、継続的に情報発信をするためには、関係機関や団体などの関係者が連携して戦略的に PR に取り組むことが重要であるため、今後は、先進地域の取組みなども踏まえながら、具体的なコミュニケーション戦略の手法や進め方についても検討していきます。

## 鳥取駅周辺再生基本計画策定の経過

本計画の策定にあたっては、令和5年8月に発足しました、交通やまちづくりの分野の専門家をはじめ、交通事業者や商工団体、金融機関、行政機関等で構成する「鳥取駅周辺リ・デザイン会議」を4回にわたり開催し、「鳥取駅周辺再生基本構想(第2期)」(令和3年3月策定)を踏まえ、令和6年3月に本計画の原案を作成しました。その後、この原案をもとにパブリックコメントを経て、集まった意見と市の考え方をとりまとめ、本計画を策定しました。

また、鳥取市議会の常任委員会(建設水道委員会)及び全員協議会において、適宜説明を行い、質疑が行われました。

### 1. 鳥取駅周辺リ・デザイン会議の開催

第1回会議 令和5年8月21日(月)

- ・鳥取駅周辺の現状と課題の整理
- ・鳥取駅周辺再整備の方向性について

第2回会議 令和5年10月27日(金)

- ・鳥取駅周辺再整備のビジョン・基本方針について

第3回会議 令和6年1月16日(火)

- ・鳥取駅周辺再整備のビジョン・位置づけについて
- ・鳥取駅周辺再整備の基本方針・イメージについて

第4回会議 令和6年3月27日(水)

- ・鳥取駅周辺再生基本計画(案)について

### 2. 鳥取市議会における説明

常任委員会 令和5年9月6日(水)

- ・『鳥取駅周辺リ・デザイン会議』の設立について

常任委員会 令和5年12月11日(月)

- ・第2回鳥取駅周辺リ・デザイン会議の開催について

常任委員会 令和6年2月27日(火)

- ・第3回鳥取駅周辺リ・デザイン会議の開催について

常任委員会 令和6年4月11日(木)

- ・鳥取駅周辺再生基本計画(案)について

市議会全員協議会 令和6年6月4日(火)

- ・鳥取駅周辺再生基本計画(案)について

### 3. 市民政策コメントの実施

実施期間: 令和6年4月22日(月)から5月13日(月)まで

意見応募者数: 75名

意見等の総数: 180件

提出された意見、提案等と市の考え方(次頁以降のとおり)

# 鳥取駅周辺再生基本計画(案)市民政策コメントに対する市の考え方

区分	意見要旨	市の考え方						
基本計画に対する内容	全体について	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の基本計画が実現したら地域の希望になる。</li> <li>・この案には賛成できない。鳥取の現状からみて、50年先に続くとは考えにくい。</li> <li>・ハコモノ批判は出るだろうが、リーダーの政治判断による早期実現が求められる。</li> <li>・市民の厳しい生活や将来に展望が見えない中、なぜ今回の計画が提案されるのか。</li> <li>・大規模工事ではあるが、完成後にもたらす経済効果は非常に大きく、税収の大幅増加が見込まれる。</li> <li>・残念ながら絵に描いた餅になると思う。人口統計からして費用対効果で無駄な対策だと思う。</li> <li>・ウォーカーブルを推進するまちでは、車を不便にする。今の案は人への優しさを感じないように見える。</li> </ul>	<p>1-1に記載のとおり、全国的にも人口減少、少子高齢化が進み、本市においても様々な課題を抱える中、鳥取の未来を担う若者が充実したライフスタイルを送れる持続可能なまちづくりを進める必要があります。そのために、本市の中心拠点、そして山陰東部圏域のエントランスである鳥取駅周辺の様々な機能を再構築し、明るい未来を創造していく「拠点」として再生を図っていく考えです。また、4-3(1)基本方針④に示す複合施設の整備にあたっては民間のノウハウや資金力を活かしたPPPなどの整備手法の活用を検討していく考えです。</p>				
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の政策にどんな見解を持ち、各種施策にどう活かすのか、基本的な考えを明らかにし、市民に示していく必要がある。</li> <li>・単に駅前だけの問題ではない。市のビジョンと連動して全ての事と連携させていく必要がある。</li> <li>・本来は、まち全体の計画があった上での関連した基本計画であるべき。</li> <li>・駅周辺の賑わいというより、周辺部に拡散したまちを集約することで、中心部に回帰させることが必要。</li> <li>・将来の居住者層の想定を踏まえながらプランニングしてもらえたらと感じた。</li> </ul>		<p>1-2に記載のとおり、本計画は、本市のまちづくりに関する上位計画の「第11次鳥取市総合計画」をはじめ、「鳥取市都市計画マスタープラン」などに即して位置付けております。また、「ウォーカーブルなまちづくりの推進」や「中心市街地の活性化」など国の関連政策を反映していく考えです。今後、こうした鳥取駅周辺の再生に関する考え方等について、市民フォーラムやワークショップなど、様々な機会を通じて説明してまいります。</p>			
			市民意見の反映について			3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利害関係者が多く、意見の偏りを感じる。住民や民間事業者等の声をもっと拾わないと大事な視点が抜け落ちる。</li> <li>・市民が主役となった会議体で人口に見合った開発を考えるべきではないか。</li> <li>・市民の声が取り入れられていないように思う。</li> <li>・市民が何を求めているのかをアンケートをしっかりと実施して、慎重に計画をつくっていただきたい。</li> <li>・今後も再開発についての具体的な設計が示された時、パブリックコメントを募集する予定はあるのか。委員会に女性委員が少なすぎる。</li> <li>・鳥取のことをよくご存じの方、利用者の方を会議のメンバーに多くいれてほしい。</li> <li>・ハードだけでなくソフト面、特に文化芸術の観点から語れる有識者をメンバーに加えてはどうか。</li> <li>・まちのデザインのプロフェッショナルに関わっていただき、着実に事業を推進していただきたい。</li> <li>・委員に女性が少ないからというわけではないが、この計画案には生活感を感じない。</li> </ul>	<p>本計画は、市民や学生を対象にしたアンケート調査や学生との意見交換、鳥取駅周辺の賑わい創出実証実験を通じた駅利用者へのニーズ調査などの結果をもとに、交通やまちづくり分野の専門家をはじめ、交通事業者や商工団体、金融機関、行政機関等で構成する「鳥取駅周辺リ・デザイン会議」での議論を踏まえ、策定したものです。今後、こうした意見聴取や推進体制の充実、強化を図っていくなかで、鳥取の未来を担う若者や女性の意見、アイデアをしっかりと把握し、活かせるように取り組んでいく考えです。</p>

区分	意見要旨	市の考え方
基本計画に対する内容 鳥取らしさを感じられる拠点整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取らしく駅前周辺に子どもが遊べる砂場広場があってもいいと思う。</li> </ul>	<p>3-2(1)及び(3)に記載のとおり、鳥取駅周辺は、鳥取の玄関口としてだけでなく麒麟のまち圏域の新たなランドマークとして、来訪者にとって鳥取を感じていただける印象的な空間であることや、市民に親しまれ、誇りに思っていただけることが重要です。今後、こうした考え方のもとに、鳥取の魅力を発信できる拠点整備を目指してまいります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前広場に本物の砂を持ってきてほしい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が砂に親しむ機会を増やすとともに、温泉も特色の一つなので足湯を設けてはどうか。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉地らしい足湯や、踊り・民藝を象徴するオブジェなどを配置してはどうか。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取駅に鳥取の魅力を詰め込んでほしい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が集いたくなる施設を整備する観点から、整備空間のどこかに、足湯または露天風呂をつくることを提案する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今ある魅力やポテンシャルに注目し、地元民が自慢したくなるような空間づくりが行われる事を応援する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しゃんしゃん傘をモチーフにした屋根付きベンチを設置し、待ち合せの目印をつくるべき。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取駅に着いた時、鳥取感があり、思わず撮影してしまうようなシンボリックな何かが出来ると良い。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を拜読していてとても気になることは、鳥取オリジナルのストーリー性を感じないことです。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来鳥された方が、鳥取へまた来たいと思えるまちづくりをする必要がある。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜は、屋根を利用して因幡地域のプロジェクションなどの演出を行い、昼とは違う空間を期待する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の同じような建物でなく、鳥取らしく自然を大切にし心豊かな街を目指したと承知していました。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県内の各市町村が持ち回りで、観光客も参加できる楽しいイベントを開催してはどうか。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民全員がおもてなしの心を育てて鳥取を大いに盛り上げる気持ちを持ちたい。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・官民一体となって、鳥取をゴジラの聖地化してインバウンドの目玉としてはどうか。</li> </ul>		
ユニバーサルデザインの対応	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りやベビーカーを想定し、階段だけでなく昇降機の設定も必須。</li> <li>・当然のことと思うが、エレベーターを付けてほしい。階段だけだと車椅子の人は困る。</li> <li>・子ども用トイレやキレイな行き届いたトイレは、人が集うことを目的とするなら、重要なポイントである。</li> <li>・点字ブロック化の検討をお願いする。</li> </ul>	<p>3-2(3)に記載のとおり、高齢化の進展や高まるインバウンド需要に対応していくために、鳥取駅周辺の施設や歩行空間のバリアフリー化、分かりやすい案内表示など、多様な利用者を見据えたユニバーサルデザインの整備を目指してまいります。</p>
バスターミナル、交通広場の再編	<p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスターミナルの設備更新、移転には賛成。</li> <li>・南北を統合することには賛成する。</li> <li>・駅北には、タクシー乗り場をつくらないほうがよい。</li> <li>・タクシー乗り降り口は駅構内から近い所が望まれる。</li> <li>・ターミナルビルを駅に取り込んではどうか。</li> <li>・バスターミナルは、地下に作るべき。</li> <li>・高層化よりも低層化で緑を増やすべき。</li> <li>・高層のバスセンターを新築し、高速バスが利用できるようにしてはどうか。</li> </ul>	<p>4-3(1)基本方針①に記載のとおり、新たな集約型交通ターミナルは、鉄道やバス、タクシー、自家用車、自転車などの多様な交通モード間をシームレスに乗り換えることができる、利便性の高い施設・機能を目指してまいります。今後、鳥取駅周辺の交通実態調査や将来を見据えた交通ネットワークのあり方等を踏まえながら、専門家や交通事業者、関係機関と協議を重ねながら、最適な交通ターミナルの整備計画をとりまとめたいと思います。</p>

区分		意見要旨	市の考え方			
基本計画に対する内容	災害時の対応	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスターミナルと駐車場が一つのビルに集約されれば、積雪時も安心で、災害時対応も可能となる。</li> <li>・災害時の避難場所として、駅前商店街を地下に移し、現在の商店街を駐車場にしてはどうか。</li> </ul>	3-2(3)に記載のとおり、災害に強い鳥取駅周辺を目指して、災害時に駅や駅前広場に避難者を受け入れることを想定した空間の整備など、防災機能の充実を図っていく考えです。また、整備する新たな施設は、平常時に使用している施設(待合空間や賑わい空間)や設備などを転用することを基本に検討を進めていく考えです。		
		自転車やパーソナルモビリティ等	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無料でおける自転車置き場をつくってほしい。</li> <li>・自転車の組立解体・整備スペースを設置してほしい。</li> <li>・レンタル電動キックボードなどの交通もほしい。</li> <li>・自転車整備ができる空間や、サイクリングルート案内などサイクリストにも利用しやすい環境整備。</li> <li>・現在の鳥取駅では、自転車組立解体スペースが指定されておらず、輸行もやりにくくなっている。</li> <li>・自転車通路線引きで、駅前自転車走行空間を整理して、歩行者に迷惑をかけない利用を可能としては。</li> <li>・誰もが快適に利用できる駐輪場やバイク置き場、短時間の駐輪は無料にするなど検討してほしい。</li> <li>・観光用のレンタルサイクルはあるが、日常生活でも使えるよう、拠点をまちなかに増やしてほしい。</li> <li>・車を持たない人の居住利便性を高めるためにも、手軽に利用できるカーシェアの導入を検討してほしい。</li> <li>・自転車を卒業した高齢者が、電動モビリティを活用して快適に暮らせるようにしてほしい。</li> </ul>	4-3(1)基本方針①に記載のとおり、主幹交通はもとより、自転車や、レンタサイクル、レンタル電動キックボード等の新モビリティへの対応も含め、パーソナルモビリティなどの乗換えの利便性の確保を図っていく考えです。	
	駅周辺道路の円滑化		9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見直すべきは、駅前道路であり、駅南広場を削って直線にすべき。</li> <li>・地元民も観光客も行きやすい場所にするために、周辺道路環境の大胆な見直しが必要。</li> </ul>	4-3(1)基本方針①に記載のとおり、鳥取駅周辺道路の円滑化にも繋がる取組となるよう検討を進めていく考えです。今後、鳥取駅周辺の交通実態調査を実施し、新たな集約型交通ターミナルの整備による周辺道路への交通流動の影響等を分析しながら、最適な鳥取駅周辺の道路ネットワークを検討してまいります。	
			待合環境の整備、交通情報の発信	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・列車の待合い時間に休憩する場所が少ない。雨天の場合も含めた考えられた休憩場所の確保を。</li> <li>・ターミナルビル等までは必要ないが、待合い機能の充実が必要である。</li> <li>・待合いスペースの営業時間を長くして、デジタルサイネージや路線バス出発の自動放送も導入してほしい。</li> <li>・どのバスに乗れば目的地に着くかや、休日運休も多く時刻表も分かりにくい問題があり改善が必要。</li> <li>・路線に対応した行き先が分かるデジタルサイネージを導入してほしい。</li> </ul>	2-2に記載のとおり、現在の鳥取駅周辺には、待合空間の環境改善が必要であることや、雨天、降雪時など、悪天候時に快適に滞在できる施設や機能が不足しているといった課題があり、4-3(1)基本方針①及び③に記載のとおり、公共交通の待ち時間を充足した時間にできるような、交通や観光の情報提供をデジタル化するなど待合環境の高質化を図ることや、悪天候時にも快適に滞留できるオープンスペースの整備を検討してまいります。
	平面広場等のオープンスペース			11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広場のアーケード天井は大きすぎない適正規模が望まれます。</li> <li>・天候的にも、屋根が閉じたり開閉式の壁を設置するなどの検討や、囲う部分の空調設置も検討してほしい。</li> <li>・こじんまりとした感じにせず、開放感を目指して広くつくってほしい。</li> <li>・風紋広場で基本方針に書かれている機能は果たされていると思う。無くさないでいただきたい。</li> <li>・緑の乏しい潤いのない街並みになってしまうのではないか。なにか工夫はできないものか。</li> <li>・バード・ハットがあるので、イメージパスほどの広いスペースを作る必要はない。</li> <li>・風紋広場に屋根を付けてもらえば、雨天時のイベントも中止することがなくなるので検討してほしい。</li> <li>・晴れしか考慮していないように感じる、天候(雨など)や四季も考慮してほしい。</li> </ul>	鳥取駅周辺は、地域の内外から多くの人々が集まる山陰東部圏域のエントランスとして、4-3(1)基本方針②に記載のとおり、若者や子育て世代などが集い、楽しみ、滞留できる空間を創出するために広場等のオープンスペースを整備していく考えです。整備する広場等は、まちの顔にふさわしい良好な景観形成や、訪れる人にゆとりや安らぎを与える空間の創出、他施設との連携・空間の共有といった視点を重視し、最適な規模や立地、機能を検討してまいります。

区分	意見要旨	市の考え方
基本計画に対する内容 歩行者デッキ、地下通路等	・開閉式の屋根で全天候型を検討してほしい。開閉式の壁もあれば、快適に通行できると思う。	4-3(1)基本方針②に記載のとおり、鳥取駅周辺再整備により創出される賑わいを波及させていくために、まちなかとの連続性を意識しながら、商店街や商業施設などに地下通路や歩行者デッキなど物理的に連携できるような整備をしていく考えです。整備内容につきましては、駅周辺再整備による周辺交通流動の変化についても検証を進めながら、検討してまいります。
	・歩行デッキはあるべきだと思う。	
	・駅とまちなかへの遊歩道は必須。	
	・ペDESTリアンデッキの必要性が分からない。地下通路の改良の方が有効的だと思う。	
	・大掛かりな工事は不要であり、鳥取駅の乗車人数で、ペDESTリアンデッキ整備が出るのに違和感がある。	
	・賑わい広場は、バード・ハットの積極的運用で代替可能だが、ペDESTリアンデッキ等は導入が必要。	
	・地下通路の改良は必須で、魅力あふれる通りとしてほしい。	
	・まちなかへの歩行デッキは必要である。	
	・交通ターミナルの天井をデッキ広場とし、新たな商業活動の場を提供してはどうか。	
	・ペDESTリアンデッキは一部ガラス張りにし、砂丘の風紋などデザイン性のあるものにしてほしい。	
	・シャミネの2階と丸由の2階とが繋がったら便利と考えます。	
・交差点もさほど混雑してないので、スクランブル交差点も検討していたが、平面横断で解消できるのでは。		
・人が車の上を通るのは転落の危険もあり反対です。立体にしたいなら車が地下を通るか高架で跨ぐべき。		
まちなかへの賑わいの波及	・駅と商店街が大きな道路で分断されているような車中心の発想では賑わいは戻らないと思う。	鳥取駅周辺で創出される賑わいをまちなかに波及させていくためには、地下通路や歩行者デッキなどの構造的な環境整備に加え、商店街などまちなか自体の魅力を高めていくことが重要になります。今後、鳥取駅周辺再整備の取組と並行して、商店街や商工会議所、中心市街地活性化協議会と連携し、まちなかの魅力を高めていく有効な対応策を検討、実施してまいります。
	・商店街が衰退する中、まちを歩いてもらって鳥取に滞在してもらうことを考える必要があるのでは。	
	・駅周辺に公共施設等を整備してしまうと、中心市街地に人の流れがつかれないのではないかと。	
	・駅に施設が集まる事で、本当に駅周辺に賑わいが集まり、商店街などが活性化されるのだろうか。	
分煙機能	14 ・駅北口、駅南口ともに、喫煙者による受動喫煙を防ぐようにすることを必ず行ってほしい。	2-1に記載のとおり、喫煙スペースの改善が必要であり、多様な人々が多く行き交う鳥取駅周辺に喫煙場所を設置する際には、受動喫煙を生じさせることがないように配慮することや、景観にも配慮する必要があると考えております。今後、こうした考えのもとに、最適な整備計画の策定を目指してまいります。
公共公益施設の整備	15 ・新たな公共施設は必要ない。 ・公共公益施設は、駐車場も確保できる市民会館と旧日本庁舎跡地に作っては。	鳥取市では、老朽化による更新が必要な既存施設を集約・複合化することによって、公共施設の総延べ床面積を削減し、将来の建物の更新経費や維持管理費の削減を目指す取組を推進しております。鳥取駅周辺再整備では、こうした取組との整合性を図りながら、最適な整備計画の策定を目指してまいります。

区分	意見要旨	市の考え方
基本計画に対する内容 公共公益施設の整備	16 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化機能等は、既存施設があるので、サテライト的な役割を果たす規模が望まれる。</li> <li>・市民会館や文化ホールも老朽化しているので、駅周辺に移転した方がよい。</li> <li>・ホール施設を集約する際は、文化団体の練習場所や楽器置き場を確保していただきたい。</li> <li>・週末のイベントは込み合っているため、大中小3種類設けてほしい。分散化も選択しとしてほしい。</li> <li>・200～300人の小ホールがあった方がよい。その場合にはエレベーターの位置も考えてもらいたい。</li> <li>・ホールのロビーに簡単なスナックやドリンクコーナーがある方がよい。</li> <li>・音の響きを考慮したものでないと使えないホールになってしまうので、専門家に設計してもらいたい。</li> <li>・150人程度のサロン風コンサートができる場所が欲しい。</li> <li>・ホールなど文化機能の充実をまず目指すべき。民間との事業連携や民間投資を呼び込める可能性が高まる。</li> <li>・文化施設には、この地こそが相応しいと考える。再編が検討されている文化施設を中心に検討してほしい。</li> <li>・新しい公共施設にホール一つでは十分ではない。市民会館と文化ホールの維持を強く希望したい。</li> <li>・鳥取駅の近くに、津山のような、音楽ホールや展示ホール、図書館を備えた会館が出来るといい。</li> <li>・ただの展示施設ならば不要。旧本庁舎跡地に「鳥取市立美術館」として50年後に存在していること願う。</li> <li>・文化ホールに図書館や遊べるスペースが30年前にあったが、同様のスペースを復活させてほしい。</li> <li>・文化施設統廃合で維持管理費を削減してほしい。複合施設は、生涯学習等の催しの開催を検討してほしい。剪定など維持管理費が生じる植栽は不要と考える。</li> <li>・複数あるホールの棲み分け、役割分担を考慮されているのか。採算性も念頭に構想を練ってほしい。</li> <li>・単なるギャラリースペースではなく、写真展示ができるスペースを設けるべき。</li> <li>・旧本庁舎跡地利用のようにならないよう、利益優先で、文化芸術施設の建設も強く要望する。</li> <li>・駅南に集約駐車機能を配置し、文化施設を集約する。</li> <li>・文化的交流広場の記載があるが、市立美術館の実現を望む。</li> <li>・展示ホールと美術館を同じ様に考えるのはおかしい。次世代の文化芸術の担い手を育てる市美術館は必要。</li> <li>・市立図書館などの公共施設のサテライト機能をつくることで、駅周辺の魅力を高めてはどうか。</li> <li>・図書館は入れない方がよいと思う。</li> <li>・中央図書館の移転を検討してほしい。</li> <li>・新設の複合施設の中には、砂の美術館の分館を設置することを提案する。</li> <li>・ハローワークなどの公共施設の活用ができないか。</li> </ul>	4-3(1)基本方針③に記載のとおり、市民が日常的に鳥取駅周辺に集うライフスタイルの創出を目指し、文化施設などの公共公益施設の整備を検討していく考えです。具体的な施設・機能につきましては、次のステップの「鳥取駅周辺再生整備計画」の策定で検討していくこととしております。特に文化施設に関しましては、令和6年8月に立ち上げを予定している「新たな文化施設整備に関する有識者会議」での議論や、鳥取駅周辺再整備の進捗を踏まえながら、機能や規模、整備候補地などを取りまとめていく考えです。

区分		意見要旨	市の考え方
基本計画に対する内容	若者が集う空間整備	17 ・若者限定の場所をつくり、色々な人に自然と出会える賑やかな環境に変わってほしい。	1-1に記載のとおり、次の時代を担う若者が住み続けたいと思える鳥取駅周辺の再生に取り組む必要があります。こうした視点を重視しながら、4-3(3)に記載しているような、多様な人々が集い、交流し、充実したライフスタイルが送れる環境整備を目指していく考えです。
	情報発信施設の整備	18 ・公の情報発信拠点を設けることで、その情報を求めて立ち寄る人が増える効果が期待できる。 ・観光案内所が手狭であること等は、駅構内に場所を確保することで、解消できる。 ・観光客やビジネス客に年中を通し適切な宣伝・広報を時期に応じて変えながら案内できる体制が必要。 ・県内観光地を俯瞰する多言語対応のビジターセンターの設置が必要。 ・案内窓口等には、多言語対応の情報を提供することが必要。	4-3(1)基本方針③に記載のとおり、山陰東部圏域のエントランスとして、交通情報や観光情報、災害時にはリアルタイムの災害情報を外国人来訪者や障がい者等にもわかりやすく発信できる、統合型情報発信施設の整備を目指していく考えです。
	民間の誘導・整備による多機能な複合施設の整備	19 ・民間企業の協力をいかに得られるかが焦点になる。商業施設の誘致に全力を掛けてほしい。 ・駅前の核となる高層複合ビルや高層マンションが建設できれば商機が生まれ、経済が周り出す。 ・どんな企業を誘致するか不安。地元企業と一緒にあって、周辺地域が盛り上がるような施設整備を。 ・民間が投資するとは思えない。既存店舗と競合し、つぶし合いになるのでは。 ・周辺の商店街や宿泊施設に悪影響を及ぼさないのは絶対条件。時間をかけて基本方針の方向を探るべき。 ・駅の利用者数を多くしたければ、商業施設運営会社を選定して、参画してもらうのがよい。 ・シネコンが必須である。最新の映画を見るために流出している状況もつらい。 ・鳥取がもっと発展し、賑わいのあるまちになることを願っている。複合施設の中に映画館を入れてほしい。 ・駅周辺に映画館を絶対に誘致した方がいい。多くの人が他都市の大きな映画館に行っている。 ・若い世代を集客する施設として、映画館(シネコン)の誘致が有効ではないか。 ・複合施設の一部に映画館をつくってほしい。ミニシアターでもよい。 ・中心市街地に書店の数が少ないので、書店誘致も検討していただきたい。 ・複合施設の中に書店をいれてほしい。 ・書店とカフェを融合させた魅力ある店舗が必要。 ・夜遅くまで営業してくれる、おしゃれなカフェが欲しい。 ・レジャー施設がほとんどないので、若者などが集まりそうな遊べる所をつくってほしい。 ・山陰最大級の施設を期待しており、そのくらい大胆に計画しないと賑わいが生まれない。 ・鳥取駅だけでなく、駅前商店街も高層ビル化を促すなどし、山陰随一の商業集積を実現してほしい。 ・温室付きの緑化された複合施設で森林浴しながらショッピングを楽しんだりできるようにしてほしい。 ・子育て世代が休憩したり、楽しんだりする施設と、駅へのアクセスが容易な動線が必要。 ・汽車を見れる場所や展望デッキがあれば、親子連れが駅に足を運ぶ。子育て王国にちなんだ何かしてほしい。 ・有料でもいいので、子ども達が室内で遊べるような場所がほしい。清潔な授乳室があると嬉しい。	4-3(1)基本方針④に記載のとおり、既存施設や商店街などとの連携にも配慮しつつ、魅力ある多機能な民間施設整備の誘導による、複合施設の整備を目指していく考えです。民間施設の内容につきましては、5-1に記載のとおり、今後、民間事業者との対話(サウンディング型市場調査)を実施し、その状況を踏まえながら、検討を進めてまいります。

区分		意見要旨	市の考え方				
基本計画に対する内容	PPPなどの整備手法の活用	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政と民間の活力を一体化して整備するのが現実的。PPPについて、市としてリードしてほしい。</li> <li>・将来世代の負担が増えるので、大きな予算を使って大工事を施さないでほしい。</li> <li>・維持管理の観点からコスト削減を見込むなら、整備内容を工夫してほしい。完成後の改修費を削減するためにも、メンテナンス性が高く耐用年数のあるものにすべき。</li> <li>・建設工事を地元が発注していけば、地域の経済効果が大きくなる。</li> </ul>	4-3(1)基本方針④及び5-1に記載のとおり、整備手法の検討にあたっては、幅広く民間事業者との対話を重ねながら、整備費用の削減、環境負荷やランニングコストの低減、費用対効果など多角的に検討を行い、最適な整備手法を整理していく考えです。			
		管理運営組織	21		<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅の施設に加え、周辺施設も一体的に産官学共同のコンソーシアム組織に運営させてはどうか。</li> </ul>	4-3(1)基本方針③に記載のとおり、公共と民間、大学等が連携して鳥取駅周辺再整備後に、まちに賑わいをつくり、施設を維持していくマネジメント組織の整備が必要です。このため、5-2に記載のとおり、計画段階から、地元地域や関係機関、民間事業者などと対話しながら検討していく考えです。	
		駐車場の整備	22		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型駐車場が必要。</li> <li>・アーケード街を利用する人が、誰でも利用できる無料の広い駐車場があったらいいと思う。</li> <li>・子どもと行きやすいよう、駐車場は必須。</li> <li>・車利用者の利便性を考慮して、駐車場整備を望む。</li> <li>・1時間以内の家族送迎の平面駐車場は無料にしてほしい。</li> <li>・集約・再編した後の駐車場のキャパシティには不安がある。</li> <li>・駅北に、複数階の立体駐車場を確保する。</li> <li>・駅前広場やロータリーの地下を利用した、地下駐車場の設置を要望したい。</li> <li>・駐車場問題が解決しない限り不便になるのは明らかであり、計画に無理がある。</li> </ul>	4-3(1)基本方針①及び④に記載のとおり、鳥取駅周辺の駐車場の集約、再編を考えており、今後、鳥取駅周辺駐車場の需給バランスの実態調査や、再整備後の需要の予測を立てながら、その必要性や規模、機能等について検討してまいります。	
					交通事業者等との連携		23
	鳥取駅周辺再整備に関する情報発信			24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取駅周辺再生基本計画を情報誌等に掲載するなど、もっと積極的な情報発信をお願いしたい。</li> </ul>		鳥取駅周辺再整備に関する情報発信につきましては、これまで市の公式ホームページやSNS、市報、ラジオ、市広報TV番組など各種広報媒体を通じた広報や、鳥取駅周辺での実証実験やイベント、そしてマスコミを通じた情報発信に努めてきました。今後、こうした取組に加えて、本基本計画を活用し、市民フォーラムやワークショップを開催するなど、情報発信の強化を図ってまいります。
	その他			25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・列車とバスの乗り継ぎが便利になるのは望むところだが、そもそも便数が少ない。</li> <li>・ハード面での整備も必要かもしれないが、不便になっているのは便数が減っているからでは。</li> <li>・駅周辺の活性化に最も重要な、公共交通利用者の増加対策も講じてほしい。</li> <li>・インバウンドも含めた多くの観光客を受け入れるためには、スーパーはくとの増便が必要。</li> </ul>		公共交通の利便性向上は、今後の持続可能なまちづくりを進めていくうえでも重要な課題の一つであります。引き続き、交通事業者や関係機関と連携しながら、利用者ニーズに応じた最適な公共交通の環境整備に努めてまいります。

区分		意見要旨	市の考え方
その他	その他	26	ご意見として承ります。
		・商店街の空き店舗について、移住者は店舗の家賃等を引き下げる優遇をしてはどうか。	
		・若桜街道と智頭街道で区画整理事業を行い、公共施設を再配置することを提案する。	
		・バードスタジアムは駐車場がなく宝の持ち腐れである。駐車場を整備してイベントに使えるようにしては。	
		人口減少の問題に早急に対処すべき。子育て支援など子供・教育・文化を充実させるべき。	
		・コミュニティナース(CNC)を活用し、地域の生活コスト等の削減により移住や定住しやすい環境づくりを目指す。	
		・鳥取市の路面電車(LRT)を整備してはどうか。	
		・商店街通りに人を呼び込むためにも、今のうちから、ウォールアートなどに取組み布石を打ってはどうか。	
		・いくら駅を整備しても、居酒屋しかない状況では、周辺の整備をしないと変わらないと思います。	
		・人口密集地や商業地近くに駅を新設し、運転間隔を短縮したりなどを検討してはどうか。	
・智頭急行の次期車両には、ハイブリッド電車を導入し、お客様に快適な旅を提供してほしい。			

鳥取駅周辺再生基本計画

令和6年6月

編集・発行

鳥取市都市整備部 まちなか未来創造課

〒680-8571 鳥取県鳥取市幸町71番地

TEL:(0857)30-8331

FAX:(0857)20-3953

E-mail:machinakamirai@city.tottori.lg.jp

鳥取市公式ウェブサイト:<https://www.city.tottori.lg.jp/>